

共同研究

長期自然体験活動を経験した青少年のその後の姿
～「御五神島・無人島体験事業」の追跡調査～

報 告 書

平成 30 年 2 月



無人島チャレンジ実行委員会

目 次

第1章 調査の概要

1. 調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
2. 調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
 - (1) 調査対象
 - (2) 調査時期
 - (3) 調査方法
 - (4) 調査内容
 - (5) 回収数
 - (6) 調査の実施主体
 - (7) 調査研究協力者
3. 回答者の基本的属性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1

第2章 調査結果

1. 「御五神島・無人島体験事業」について・・・・・・・・ p 4
 - (1) 参加理由
 - (2) 楽しかった活動・教育的な効果が高い活動
 - (3) 今でも思い出に残っている出来事
 - (4) 事業で出会った友達との交流
 - (5) ボランティアスタッフとしての参加希望
 - (6) 無人島体験事業の継続希望
 - (7) 今後も継続してほしいプログラムや新たに組み込んでみたらいいと思うプログラム
2. 「御五神島・無人島体験事業」の教育効果とその後の影響・・・・・・・・ p 10
 - (1) 「体験の力」からみた無人島体験事業の教育効果
 - (2) 無人島体験事業でみられた参加者の変化
 - (3) 無人島体験事業による今の生活や考え方、進路等への影響
 - (4) 無人島体験事業での経験や学習したことを生かして取り組んでみたいこと
3. 最近の生活の様子・・・・・・・・・・・・・・・・ p 18
 - (1) 過去1年間の体験活動の実施状況
 - (2) 現在の生活に対する満足感
4. 保護者の子育てや教育に対する考え・・・・・・・・ p 21
 - (1) 子どもの体験活動の現状に対する保護者の意識
 - (2) 子どものしつけ
 - (3) 子どもに身につけてほしいことや、やってほしいこと

第3章 調査結果の考察

- 追跡調査からみえた長期自然体験活動の教育効果とその後の影響・・・・・・・・ p 24

資 料

- ・平成29年度 御五神島・無人島体験事業 募集要項
- ・事業日程の概略
- ・単純集計結果
- ・調査票

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、過去10年間に実施した「御五神島・無人島体験事業」の過年度参加者（11歳～25歳）を対象に現在の意識や考え方、生活の様子、保護者の子育てや教育に対する考えなどを調査し、同世代の青年・保護者と比較・検証することで、当該事業の成果や教育効果を明らかにする。

2. 調査の方法

(1) 調査対象

- 過去10年間の「御五神島・無人島体験事業」の過年度参加者とその保護者 381名
- 過去、「御五神島・無人島体験事業」等にスタッフとして参加した教諭等 196名

(2) 調査時期

平成29年7月28日（金）～9日5日（火）

(3) 調査方法

郵送法による質問紙調査

(4) 調査内容

① 参加者調査

ア. 現在の意識や考え方

体験の力（自尊感情、興味・関心、規範意識、人間関係能力等）、へこたれない力

イ. 最近の生活の様子

過去1年間の体験活動、社会に対する貢献意識、日常生活における疲労感

ウ. 「御五神島・無人島体験事業」について

参加理由、楽しかった活動、思い出に残っている出来事、今の生活や考え方への影響 等

② 保護者調査

ア. 子育てや教育に対する考え

子どもへのしつけ、子どもに対する意識、子どもとの関わり、子どもの体験活動の現状に対する意識

イ. 「御五神島・無人島体験事業」について

参加させたきっかけ、参加後の子どもの様子の変化、思い出に残っている出来事 等

③ スタッフ調査

ア. 「御五神島・無人島体験事業」について

参画した主なきっかけ、教育的な効果が高いと思う活動、教育観への影響 等

(6) 回収数

参加者調査（配布数：381人 回答数：202人 回収率：53.0%）

保護者調査（配布数：381人 回答数：206人 回収率：54.1%）

スタッフ調査（配布数：196人 回収数：142人 回収率：72.4%）

(7) 調査の実施主体

無人島チャレンジ実行委員会

(8) 調査研究協力者

青木 康太朗 国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター 研究員

仲村 拓真 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 研究補助者

3. 回答者の基本的属性

(1) 参加者

[年齢]

(%)

年齢	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	25歳
N=202	2.0	9.4	11.4	6.4	15.3	9.9	9.4	9.4	8.4	9.4	5.0	3.0	0.5	0.5

[性別] (%)

性別	男	女	無回答
N=202	69.8	29.7	0.5

[現在通っている学校] (%)

校種	小学校	中学校	高等学校	専門学校	高等専門学校	短期大学	大学	大学院	その他
N=183	3.8	33.9	32.2	3.3	3.8	1.1	20.2	1.1	0.5

[現在の職業] (%)

職業	会社員 (正社員)	公務員 (教職員を除く)	教職員	自営業	アルバイト	無職	その他
N=20	65.0	5.0	5.0	5.0	5.0	10.0	5.0

(2) 保護者

[参加者との続柄] (%)

続柄	父	母	その他	無回答
N=206	14.6	81.6	2.4	1.5

(3) スタッフ

[年代] (%)

年齢	20代	30代	40代	50代	60代以上
N=142	7.0	28.2	34.5	27.5	2.8

[性別] (%)

性別	男	女
N=142	59.9	40.1

[参画した事業] ※複数回答 (%)

事業	少年冒険生活 体験事業 (昭和 63～平成 8)	少年少女野外 生活体験事業 (平成 9～平成 13)	少年少女長期自然 体験モデル事業 (平成 14～平成 16)	わくわく体験 チャレンジ事業 (平成 17～平成 19)	御五神島・無人島 体験事業 (平成 20～平成 28)
N=238	17.2	21.4	10.5	11.3	39.5

[参画した回数] (%)

年齢	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回
N=142	77.5	7.7	5.6	1.4	2.8	0.7	2.1	0.0	2.1

[参画した当時の職名]

(%)

職名	教諭	社会教育主事 派遣社会教育主事	養護教諭	大学生
N=142	84.5	7.7	7.0	0.7

※参画した当時の職名別 現在の職名

() は人数

当時の職名	現在の職名
教諭 (120)	教諭 (95) 主幹教諭 (2) 教頭 (7) 校長 (4) 講師 (2) 課長・係長等 (3) 指導主事 (2) 社会教育主事 (2) その他 (2) 無回答 (1)
社会教育主事 ・派遣社会教育主事 (11)	教諭 (5) 教頭 (2) 校長 (4)
養護教諭 (10)	養護教諭 (10)
大学生 (1)	教諭 (1)

[校務分掌]

当時の校務分掌	現在の校務分掌
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別活動主任 ・ 体育主任 ・ 生徒指導主事 ・ 研修主任 ・ 教務主任 ・ 算数主任 ・ 図工主任 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育コーディネーター ・ 生徒指導主事 ・ 体育主任 ・ 人権同和教育主任 ・ 研修主任 ・ 教務主任 ・ 特別活動主任
等	等

第2章 調査結果の概要

1. 「御五神島・無人島体験事業」について

(1) 参加理由

「自分で行きたいと思った」参加者は6割以上、「親から勧められた」参加者は約2割

御五神島・無人島体験事業の参加者（以下、「過年度参加者」という。）に、御五神島・無人島体験事業（以下、「無人島体験事業」という。）に参加した理由を尋ねたところ、最も多かった理由は「自分で行きたいと思ったから」（65.8%）で、次いで「親に勧められたから」（20.3%）、「友達に誘われたから」（4.0%）等であった（図 1.1.）。

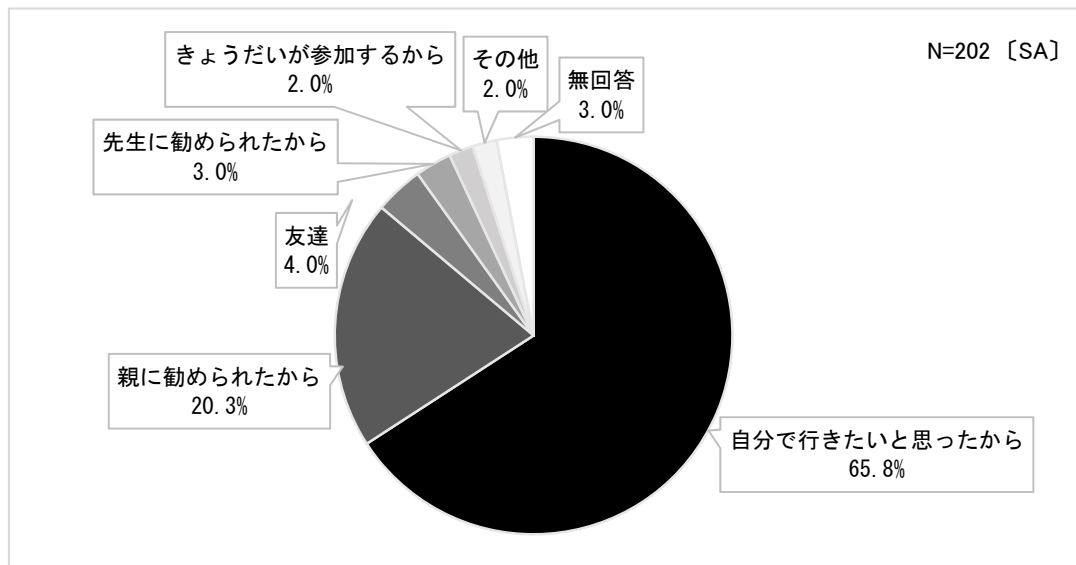


図 1.1. 参加した理由（参加者調査）

過年度参加者の保護者に、子供を無人島体験事業に参加させた理由を尋ねたところ、最も多かった理由は「子供が行きたいと言ったから」（62.6%）と参加者調査と同様の結果がみられ、次いで「親が行かせたいと思ったから」（31.6%）、「知り合いの人に勧められたから」（2.9%）等であった（図 1.2.）。

そこで、「親が行かせたいと思ったから」と回答した保護者に具体的な理由を尋ねたところ、無人島体験での子供の成長や学びを期待し、本事業に参加させていることがうかがえた（表 1.1.）。

表 1.1. 親が行かせたいと思った理由（自由記述）

- ・学校でいじめを受けており、過去を知らない新しい自分として知り合いを作ってほしかったから。（父）
- ・情報や物質など豊富な中で生活をしているため、不便さから人とのつながり、自分にできること、自然の恵み、怖さを学んでほしかったから。（母）
- ・ゲームやインターネットが普及する中、バーチャルでの遊びが主流になり、与えられる情報ばかりではなく、自分から考え、行動し、人との協力や達成感を体験として味わってほしいと思ったから。（母）
- ・以前、NHKのドキュメンタリー番組で御五神島・無人島体験事業のことを見て、とても感動して涙が出た。不自由で過酷な環境の中で、仲間と協力しながら子供たちが成長して顔つきが変わっていく姿がとても印象的で、ぜひ息子にも体験させたいと思っていたから。（母）

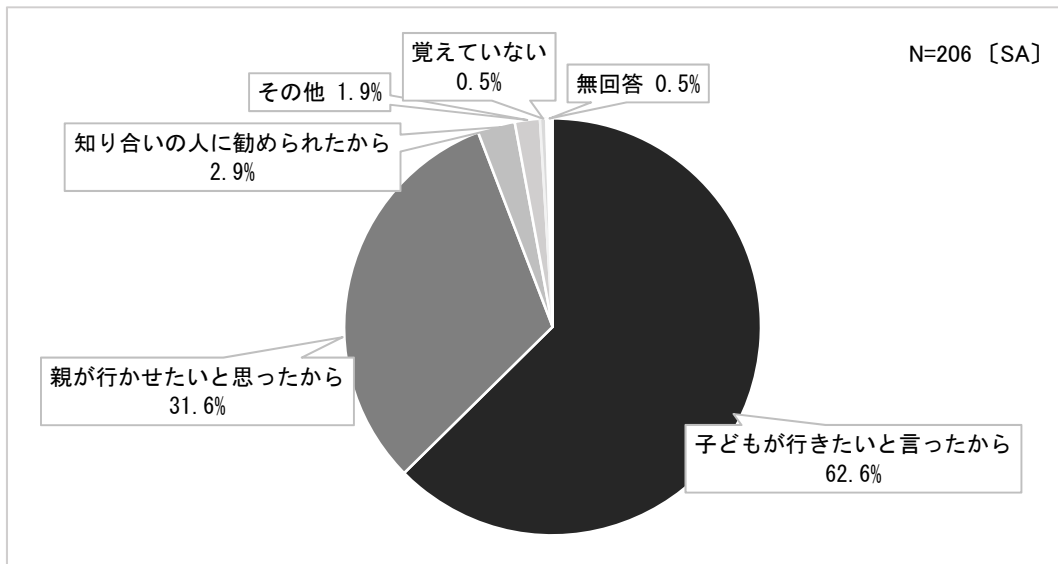


図 1.2. 参加させた理由（保護者調査）

(2) 楽しかった活動・教育的な効果が高い活動

「自給自足的な生活体験」「食事づくり」は、多くの参加者が「楽しかった」と感じているだけでなく、多くのスタッフが「教育的な効果が高い活動」と思っている。

過年度参加者に、無人島体験事業の中で楽しかった活動について尋ねたところ、最も回答が多かった活動は「自給自足的な生活体験」（70.8%）で、次いで「食事づくり」（64.4%）、「シュノーケリング」（52.0%）等であった（図 1.3.）。

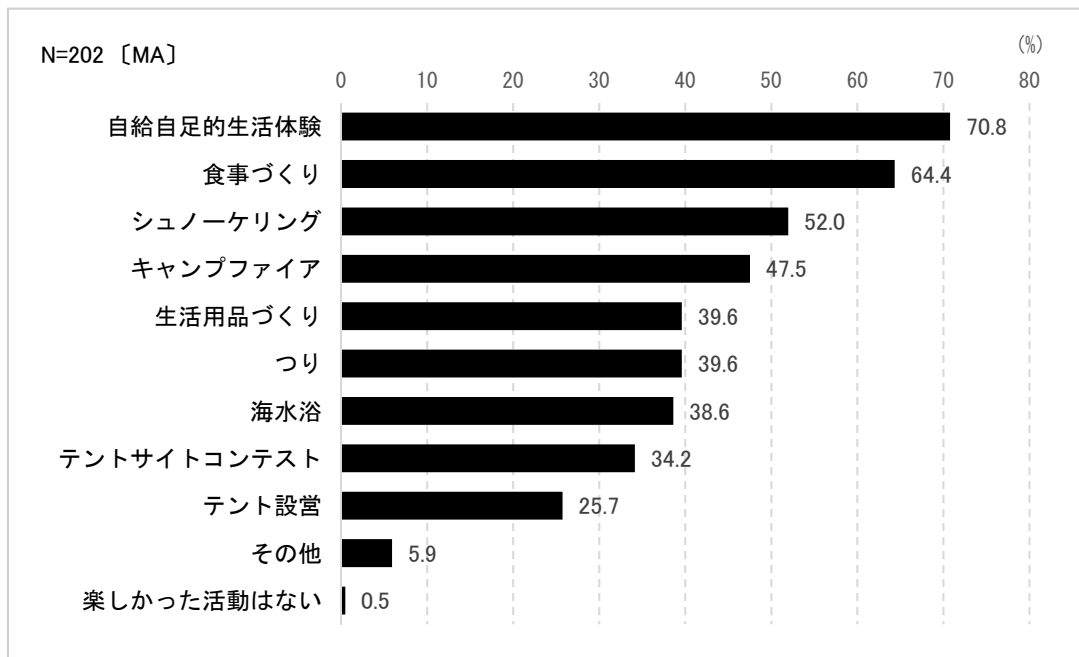


図 1.3. 楽しかった活動（参加者調査）

スタッフに無人島体験事業の中で教育的な効果が高いと思う活動について尋ねたところ、最も回答が多かった活動は「食事づくり」(93.7%)で、次いで「自給自足的な生活体験」(78.9%)、「生活用品づくり」(70.4%)等であった(図1.4.)。

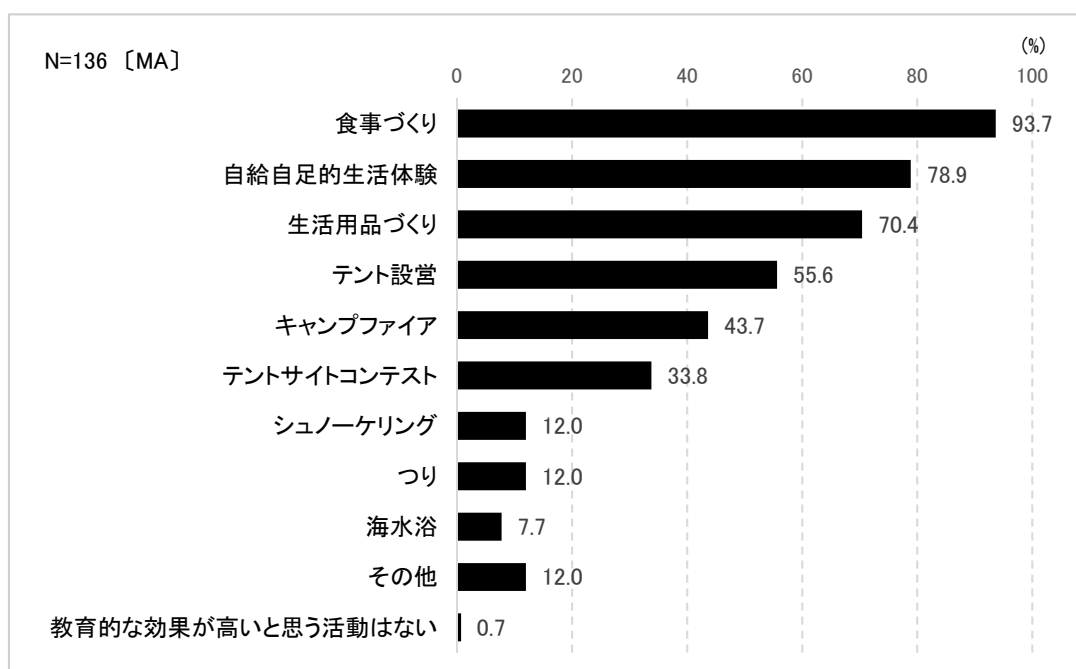


図 1.4. 教育的な効果が高いと思う活動 (スタッフ調査)

(3) 今でも思い出に残っている出来事

参加者・スタッフの約9割、保護者の8割強が「今でも思い出に残っている出来事がある」と回答

過年度参加者とその保護者、スタッフそれぞれに、無人島体験事業に参加した(させた)ことで今でも思い出に残っている出来事があるか尋ねたところ、「ある」(「たくさんある」+「少しある」)と回答した参加者は88.6%、保護者は83.0%、スタッフは95.1%であった(図1.5.~図1.7.)。

そこで、「ある」と回答した人に、思い出に残っている出来事の内容を尋ねたところ、表1.2.~1.4.のとおりであった。

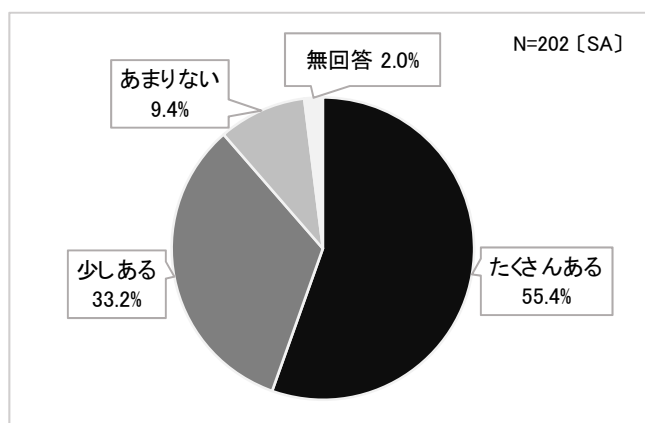


図 1.5. 思い出に残っている出来事 (参加者調査)

表 1.2. 一番思い出に残っている出来事 (自由記述)

- ・台風が近づいたときで、薪が濡れてダメになったり、テントが倒れたりで大変だったが、他の班と物々交換したり、バイト(仲間のために行う奉仕活動)をしてマッチをもらったりして何とかしのいだこと。(17歳、女性)
- ・班の中で仲の悪い人がいたが、無人島を離れる日が近づいたときに、お互いに自分の悪かったことを言い合って仲直りができたこと。(19歳、男性)

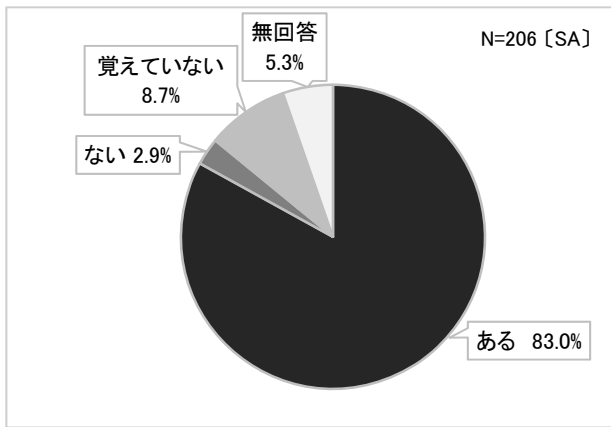


図 1.6. 思い出に残っている出来事（保護者調査）

表 1.3. 思い出に残っている出来事（自由記述）

- ・班の子供と初日は全く話すらできていない様子だったのが、帰ってきたときはまるで昔からの友人だったように班員全員と楽しそうに話していたのが印象的だった。（母）
- ・無人島から帰ってきて、とにかく電気に感動していた。夜が暗くないこと、冷蔵庫があるから腐らないなどに驚き、それが当たり前だと思って生活していたことに感謝していた。（母）

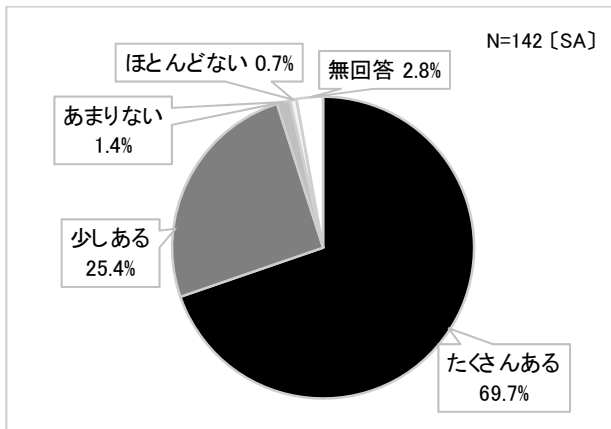


図 1.7. 思い出に残っている出来事（スタッフ調査）

表 1.4. 思い出に残っている出来事（自由記述）

- ・なかなか班になじめず、プライドの高かった男子が、最終日前の夕方、夕日を見ながら「ぼくは変わったと思う。ここに来てよかった。」と涙を流して伝えてくれたこと。（26歳、女性・教諭）
- ・最初は非協力的で、自己中心的な傾向があった子供が、活動をとおして、仲間と協力することの大切さに気づき、最後はグループのリーダー的な行動ができるようになったこと。（43歳、男性・教諭）

（4）事業で出会った友達との交流

事業で出会った友達と交流したことがある参加者は6割弱で、その方法は「手紙」が最も多い。

過年度参加者に、無人島体験事業で出会った友達と今でも交流を続けているか尋ねたところ、「続けている」と回答した参加者は17.3%、「以前はしていたが、今はしていない」と回答した参加者は38.6%となっており、6割弱の参加者が事業で出会った友達と交流をした経験があると回答した（図 1.8）。

そこで、どのように交流をしたのか尋ねたところ、「手紙」（60.2%）が最も多く、次いで「直接会った」（25.7%）、「SNS」（23.9%）等となっていた。

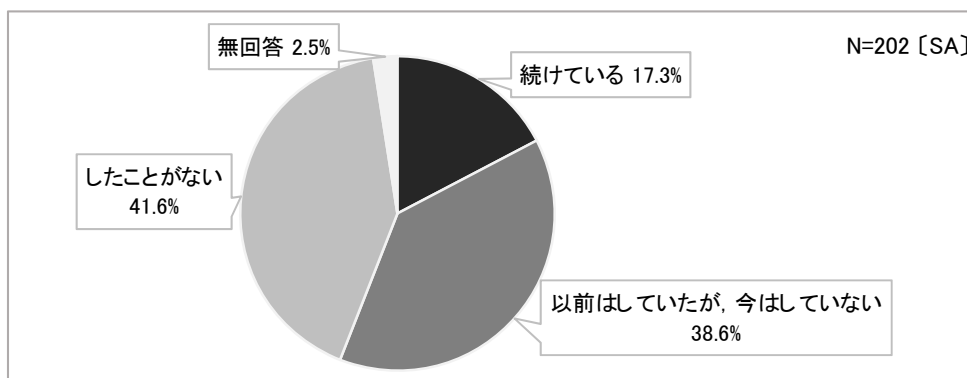


図 1.8. 事業で出会った参加者との交流（参加者調査）

(5) ボランティアスタッフとしての参加希望

7割以上の参加者が「ボランティアスタッフとして参加してみたい」と思っている。

過年度参加者に、無人島体験事業にボランティアスタッフとして参加してみたいと思うか尋ねたところ、「とても思う」と回答した参加者は30.7%、「少し思う」と回答した参加者は41.1%で、7割以上の参加者がボランティアスタッフとして参加してみたいと思っていると回答した（図1.9.）。

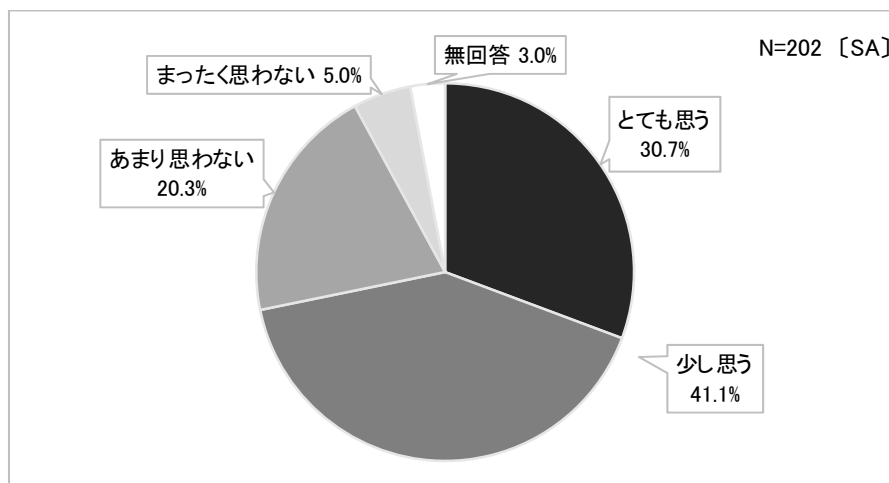


図 1.9. ボランティアスタッフとしての参加希望（参加者調査）

(6) 無人島体験事業の継続希望

9割以上の保護者が「無人島体験事業」を継続してほしいと思っており、9割以上の参加者が「将来、自分の子供を無人島体験事業に参加させたい」と思っている。

過年度参加者の保護者に、無人島体験事業の継続について尋ねたところ、「絶対に続けてほしい」と回答した保護者は44.7%、「可能であれば続けてほしい」と回答した保護者は50.0%で、9割以上の保護者が無人島体験事業を続けてほしいと回答した（図1.10.）。

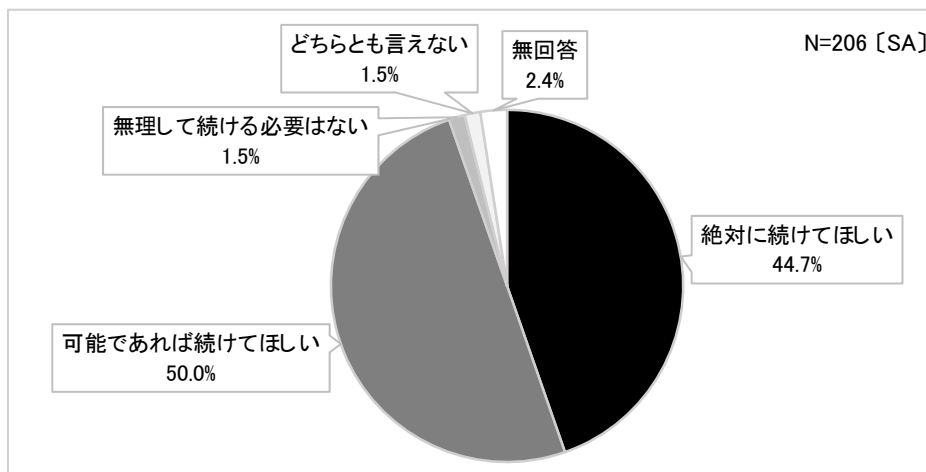


図 1.10. 事業の継続希望（保護者調査）

また、過年度参加者に、将来、自分の子供を無人島体験事業に参加させたいと思うか尋ねたところ、「とても思う」と回答した参加者が 47.5%、「少し思う」と回答した参加者が 44.1%で、9 割以上の参加者が、将来自分の子供を無人島体験事業に参加させたいと思っていると回答した(図 1.11.)。

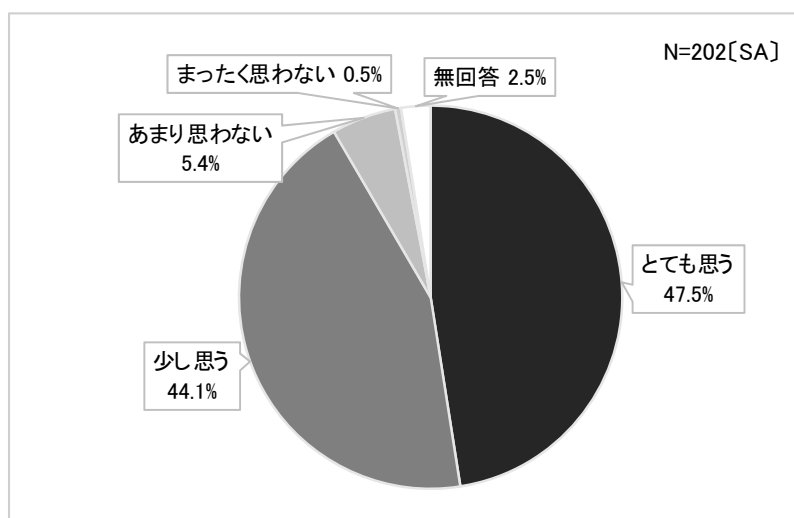


図 1.11. 自分の子供を無人島体験事業に参加させたいか (参加者調査)

(7) 今後も継続してほしいプログラムや新たに取り組んでみたいと思うプログラム

今後も継続してほしいプログラムは「自給自足的な生活体験」

過年度参加者に、今後も無人島体験事業で継続してほしいプログラムや新たに取り組んでみたいと思うプログラムについて自由記述で尋ねたところ、自給自足や野外生活体験に関する記述が多くみられた(表 1.5.)。

表 1.5. 今後も継続してほしいプログラムや新たに取り組んでみたいと思うプログラム(自由記述)

- ・自給自足生活は今後も継続してほしいと思います。また、自分で食器、箸など作るのも続けてほしいと思います。「無人島でのみんなで花火」など新たに取り組んでみたいと思います。(20 歳、男性)
- ・バッタやくもをから揚げにして食べるというプログラムを継続してほしい。(14 歳、男性)
- ・シュノーケリングや海水浴はぜひ続けてほしい。海にいたウニをとって帰ってみんなで食べたり、海を泳いでいたらタコを見つけてみんなで大騒ぎしたのが、とても楽しく、今でもとても印象に残っている。(19 歳、女性)
- ・テントサイトコンテストは、やる気も出て、快適な生活にするためにはみんなで協力もできたのでよかった。(20 歳、女性)
- ・木のようなものにメッセージを書いて家に送る活動が楽しかったです。家に帰ってから家族と話をする時の話のタネになりました。(21 歳、女性)

2. 「御五神島・無人島体験事業」の教育効果とその後の影響

(1) 「体験の力」からみた無人島体験事業の教育効果

本調査では、過年度参加者の現在の意識や考え方を把握するため、国立青少年教育振興機構が行った「子供の体験活動の実態に関する調査研究」（平成 22 年 10 月）（以下、「体験調査」という。）を参考に、過年度参加者の「体験の力」*を調査した。そして、無人島体験事業の教育効果を検証するため、過年度参加者の「体験の力」を基に、体験調査のデータ（一般の中学 2 年生、高校 2 年生、20 代）との比較や、無人島体験事業の思い出の有無、自然に対する印象の違いと「体験の力」の関係について分析を行った。

① 参加者の「体験の力」の現状と体験調査との比較

一般の青少年に比べ、無人島体験事業の参加者は「体験の力」が高く、特に中学生・高校生の「自尊感情」「共生感」「意欲・関心」「人間関係能力」でその差が顕著にみられた。

過年度参加者の「体験の力」の現状をみると、「自尊感情」が最も高く、次いで「意欲・関心」、「文化的作法・教養」の順となっている（図 2.1.）。

次に、体験調査のデータに合わせ、過年度参加者の「体験の力」を中学生（N=62）、高校生（N=59）、20 代（N=37）に分けて比較したところ、中学生、高校生まではいずれの「体験の力」も一般の青少年より過年度参加者のほうが高く、20 代においても、「規範意識」を除き、過年度参加者のほうが「体験の力」が高いという結果が示された（図 2.2.～図 2.4.）。

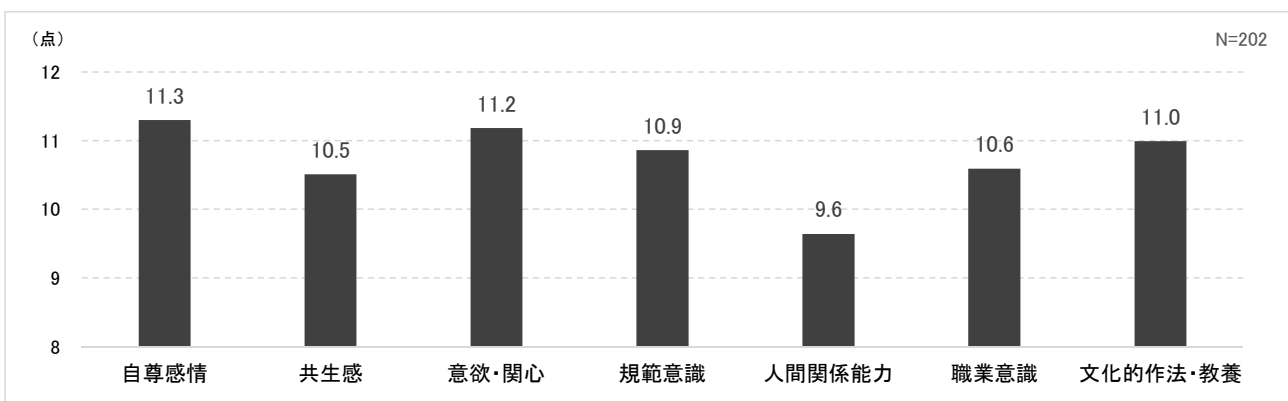
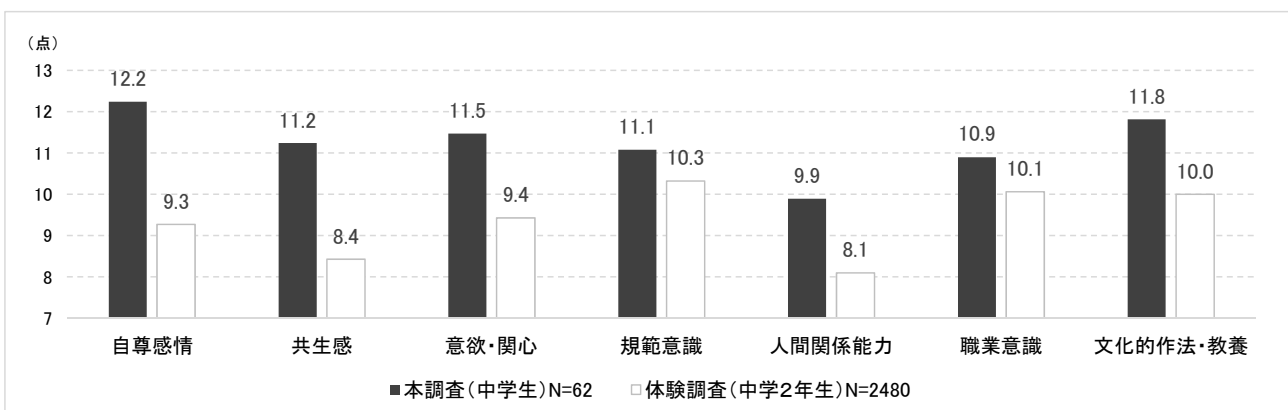
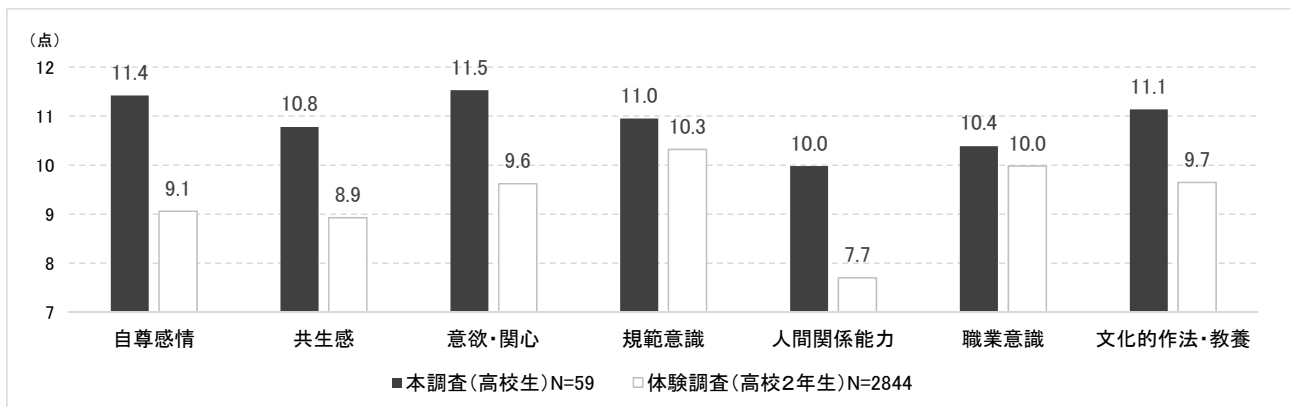


図 2.1. 「体験の力」の現状（参加者調査）



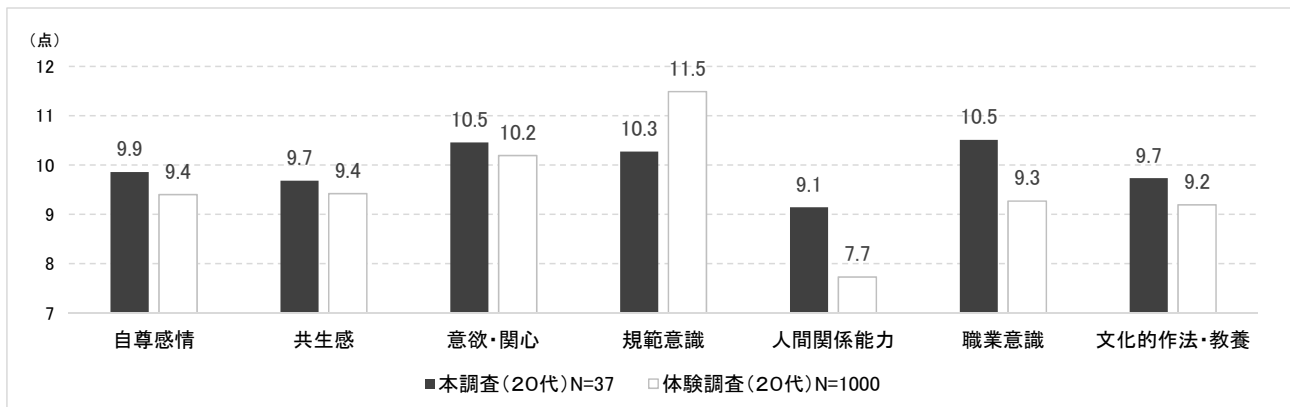
参考:国立青少年教育振興機構「子供の体験活動の実態に関する調査研究」(平成 22 年)

図 2.2. 中学生の「体験の力」の比較（参加者調査）



参考:国立青少年教育振興機構「子供の体験活動の実態に関する調査研究」(平成 22 年)

図 2.3. 高校生の「体験の力」の比較 (参加者調査)



参考:国立青少年教育振興機構「子供の体験活動の実態に関する調査研究」(平成 22 年)

図 2.4. 20代の「体験の力」の比較 (参加者調査)

過年度参加者の「体験の力」と体験調査のデータとの比較で大きな差がみられたものをみると、中学生、高校生では「自尊感情」「共生感」「意欲・関心」「人間関係能力」、20代では「人間関係能力」「職業意識」となっており、年齢によって差がみられる「体験の力」に違いがあることが分かった。また、中学生から高校生、20代と年齢が上がり、無人島体験事業から時間が経つにつれて、「規範意識」を除き、それらの差が縮小する傾向にあることも分かった。

※「体験の力」とは

- ・子供の頃の多様な体験を通して得られる資質・能力を表しており、「自尊感情」「共生感」「意欲・関心」「規範意識」「人間関係能力」「職業意識」「文化的作法・教養」の7つのカテゴリで構成されている。各カテゴリの主な質問項目は以下のとおりである。

【自尊感情】自分のことが好き、家族を大切にできる 等

【共生感】休みの日は自然の中で過ごすことが好き、悲しい体験をした人の話を聞くとつらい 等

【意欲・関心】もっと深く学んでみたい、なんでも最後までやり遂げたい 等

【規範意識】叱るべき時はちゃんと叱れる親が良い、社会のルールは守るべき 等

【人間関係能力】人前でも緊張せずに自己紹介ができる、近所の人に挨拶ができる 等

【職業意識】大人になったら仕事をするべき、社会や人のためになる仕事をしたい 等

【文化的作法・教養】お盆やお彼岸にはお墓参りに行くべき、はしを上手に使うことができる 等

- ・各質問は「とてもあてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の4段階で回答している。各カテゴリの得点は、各質問項目の回答を4~1点に得点化し、カテゴリごとにその得点を合算して算出している。

② 無人島体験事業の思い出や自然に対する印象と「体験の力」の関係

無人島体験事業にたくさんの思い出がある参加者や自然の厳しさを感じた参加者ほど「体験の力」が高くなる傾向が見られ、特に「共生感」でその傾向が顕著にみられた。

無人島体験事業の教育効果を検証する一つの視点として「無人島体験の思い出の有無」や「自然に対する印象の違い」に着目し、「体験の力」との関係について分析した。

「無人島体験事業の思い出の有無」と「体験の力」の関係をみると、思い出が「たくさんある」と答えた過年度参加者ほど「体験の力」が高くなる傾向が見られ、特に「共生感」や「意欲・関心」でその傾向であった(図 2.5.)。また、「自然に対する印象の違い」と「体験の力」の関係をみると、「人間関係能力」を除き、「厳しい日が多かった」と回答した過年度参加者ほど体験の力が高くなる傾向が見られ、特に「共生感」や「規範意識」でその傾向が顕著であった(図 2.6.)。

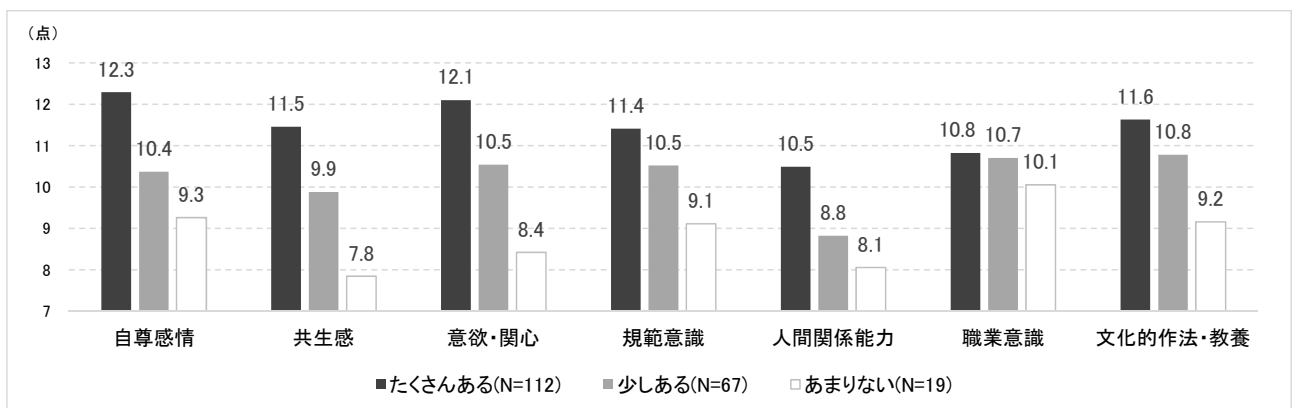


図 2.5. 無人島体験事業の思い出の有無による「体験の力」の差 (参加者調査)

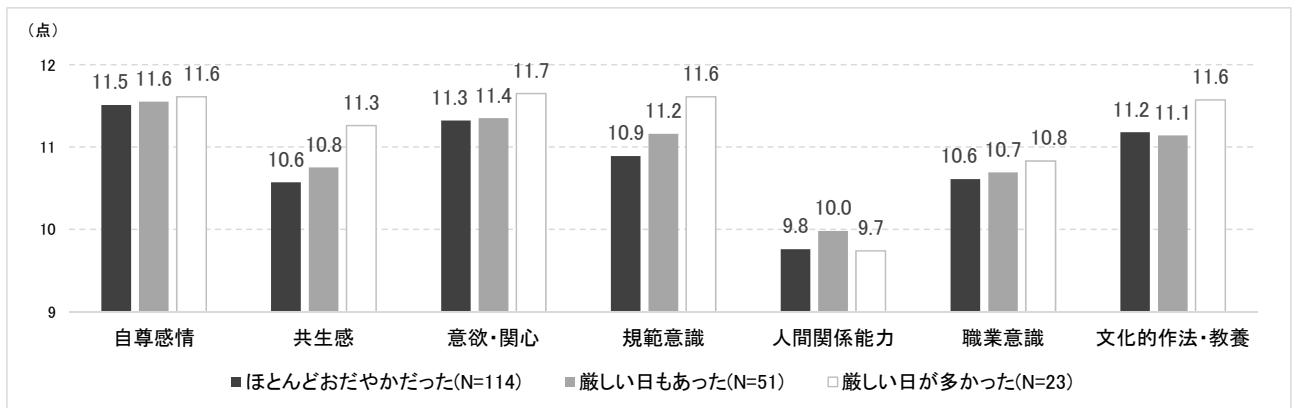


図 2.6. 自然に対する印象の違いによる「体験の力」の差 (参加者調査)

(2) 無人島体験事業後にみられた参加者の変化

無人島体験事業後にみられた参加者の変化としては、「前向きな姿勢が見られるようになった」(スタッフ)、「自信をもつようになった」(保護者)が多い。

スタッフや過年度参加者の保護者に、無人島体験事業後にみられた参加者の変化の有無について尋ねたところ、「変化がみられた」と回答したスタッフは95.8%、保護者は75.7%であった(図2.7.)。そこで、「変化がみられた」と回答した人にどのような変化がみられたか尋ねたところ、スタッフでは「前向きな姿勢が見られるようになった」(60.3%)、保護者では「自信をもつようになった」(53.8%)がそれぞれ最も多い回答となった(図2.8.)。

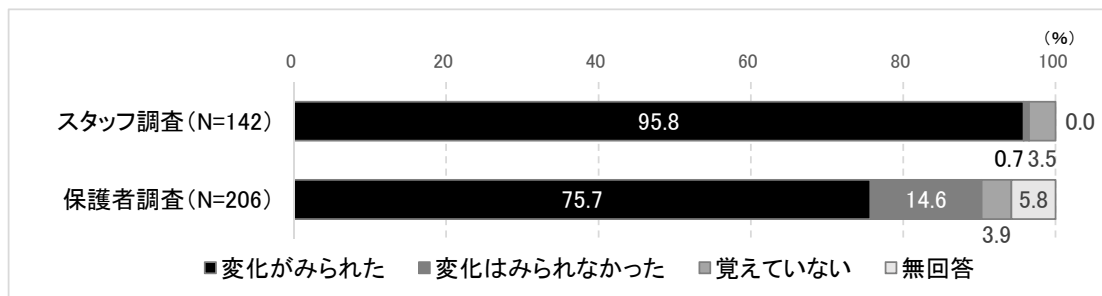


図 2.7. 無人島体験事業後にみられた参加者の変化の有無 (保護者調査・スタッフ調査)

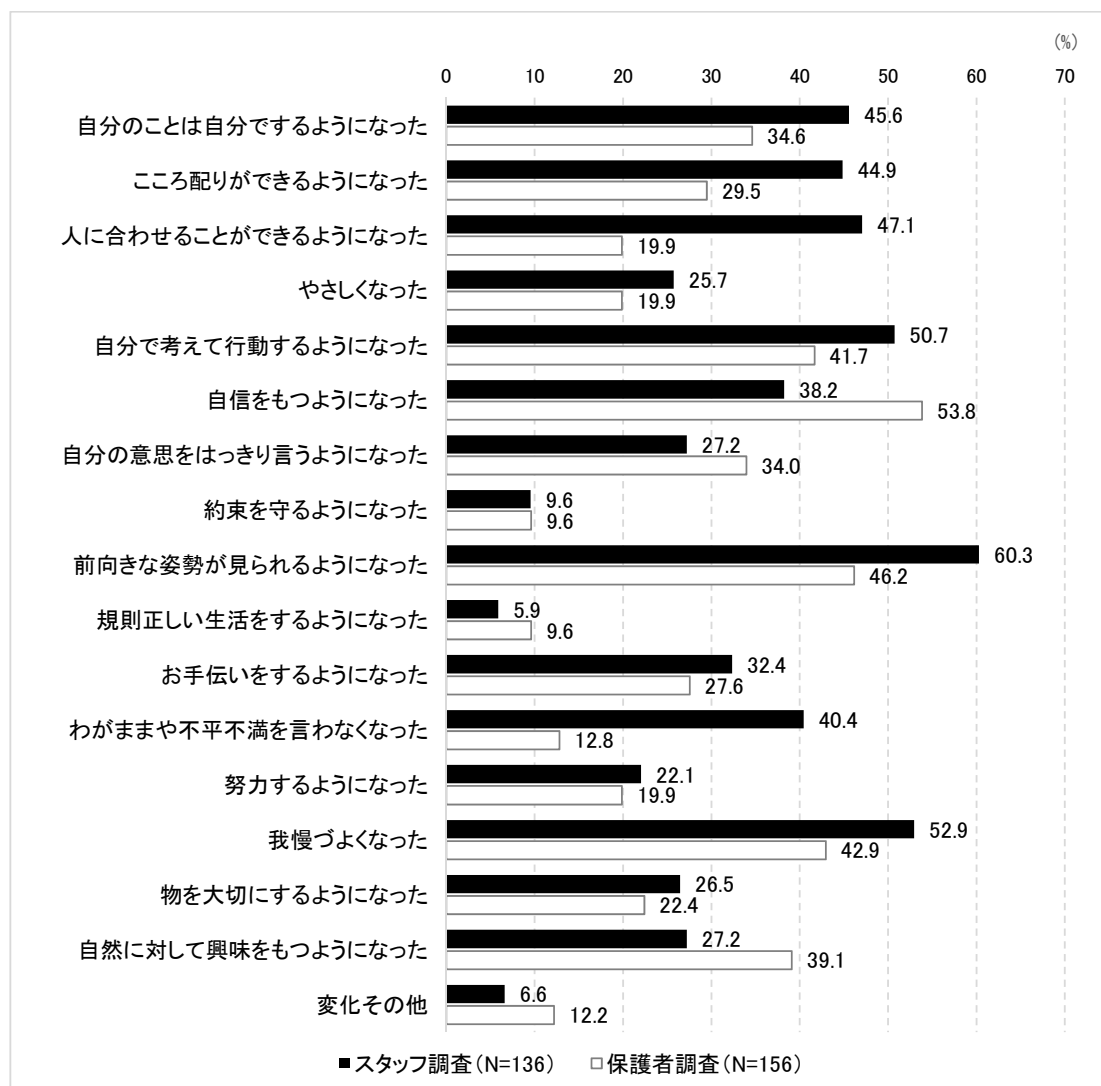


図 2.8. 無人島体験事業後にみられた変化 (保護者調査・スタッフ調査)

(3) 無人島体験事業による今の生活や考え方、進路等への影響

① 今の生活や考え方、進路への影響

無人島体験事業の参加者の7割弱は「今の生活や考え方」に影響を受けていると感じており、参加者の約3割は「進路（進学、就職、将来の夢等）」に影響を受けていると感じている。

過年度参加者に、無人島体験事業が今の生活や考え方、進路（進学、就職、将来の夢等）に影響を与えていると思うか尋ねたところ、今の生活や考え方に影響を与えていると「思う」（「とても思う」＋「少し思う」）と回答した参加者は67.3%で、進路に影響を与えていると「思う」と回答した参加者は31.7%であった（図2.9.）。そこで、「思う」と回答した人に、どのような影響を受けたと思うか尋ねたところ、具体的な影響の内容は表2.1.のとおりであった。

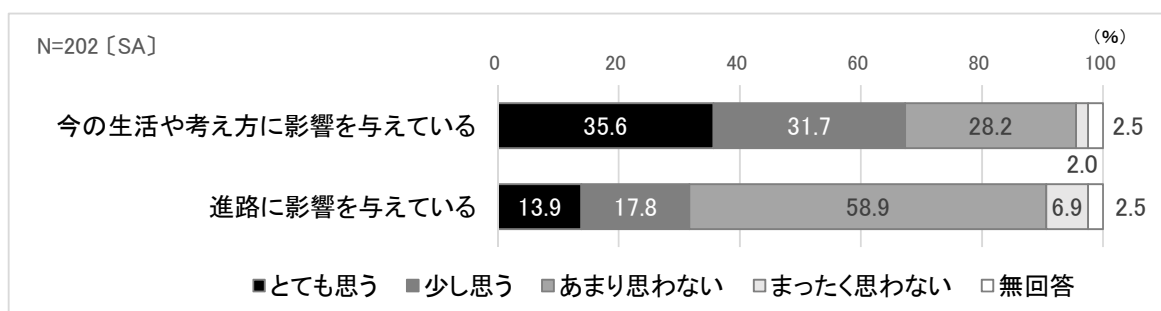


図 2.9. 今の生活や考え方、進路への影響（参加者調査）

表 2.1. 今の生活や考え方、進路への影響の内容（自由記述）

今の生活や考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・人や自然との関わりにより、人の心は磨かれ豊かになり、それにより得た知識や経験によってキャパシティが広がる。また、メンタルにおいても鍛えられた。どんな環境におかれても自分の力を遺憾なく発揮し相手をより理解し、人間関係を築くことができると自負している。(20歳、女性) ・誰かに頼ったりするのではなく、自分からどう行動すればうまくいくのかを考えるようになった。便利なものがたくさんある中で、“ない”生活を経験したことで、協力や団結が深まり、一人一人の得意なことや性格を生かせるようになった。(16歳、女性) ・大学でワンダーフォーゲル部に入部して、登山や旅などを行うようになった。狩猟に興味を持ち、狩猟免許を取得した。(23歳、女性)
進路	<ul style="list-style-type: none"> ・人は環境により、知識や経験を得、それらはその後の人生に大きく影響するという思いから豊かな人間性を育てたいと思い、保育の道へ進み、今、子供たちとの関わりにおいて悩み苦しみつつも、働く保護者に代わって保育に日々奮闘しているところです。(20歳、女性) ・来年からアメリカに留学します。どんなことにも挑戦しよう！という気持ちが、このプログラムに参加したことによってつきました。(17歳、女性) ・自然や生物がより好きになり、水産系の学校に進学した。食事づくりが楽しかったので、調理師になりたいなと思いました。(17歳、男性)

② 無人島体験事業の思い出と今の生活や考え方、進路に与える影響の関係

無人島体験事業の思い出が「たくさんある」と答えた参加者ほど、「今の生活や考え方」「進路」に影響を受けたと感じている参加者が多い。

「無人島体験事業の思い出」と「無人島体験事業が今の生活や考え方、進路に与える影響」の関係について分析したところ、無人島体験事業での思い出が「たくさんある」と回答した過年度参加者ほど、無人島体験事業が今の生活や考え方、進路に影響を与えていると「思う」（「とても思う」＋「少し思う」）と回答する参加者が多くなる傾向がみられた（図 2.10.、図 2.11.）。

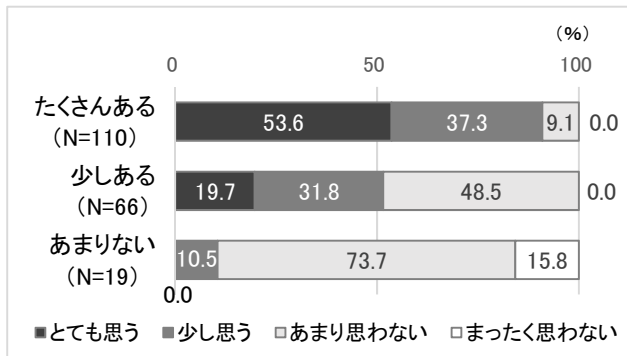


図 2.10. 無人島体験事業の思い出と今の生活や考え方への影響との関係（参加者調査）

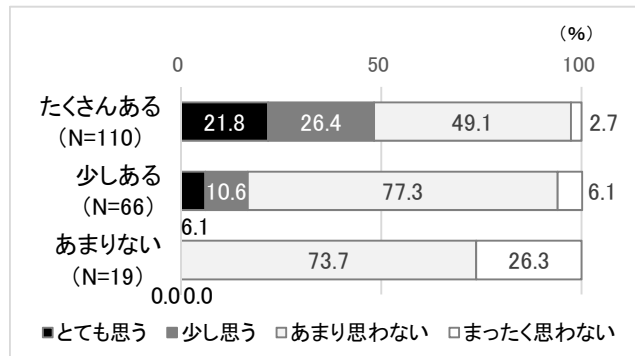


図 2.11. 無人島体験事業の思い出と進路への影響との関係（参加者調査）

③ 保護者からみた子供の現在の生活や考え方、進路への影響

7割以上の保護者は、無人島体験事業が子供の現在の生活や考え方、進路に影響を与えていると感じている。

過年度参加者の保護者に、無人島体験事業が子供の現在の生活や考え方、進路等に影響を与えていると思うか尋ねたところ、「思う」（「とても思う」＋「少し思う」）と回答した保護者は73.3%であった（図 2.12.）。そこで、「思う」と回答した人に、どのような影響を受けたと思うか具体的に尋ねたところ、影響を受けた内容は表 2.2.のとおりであった。

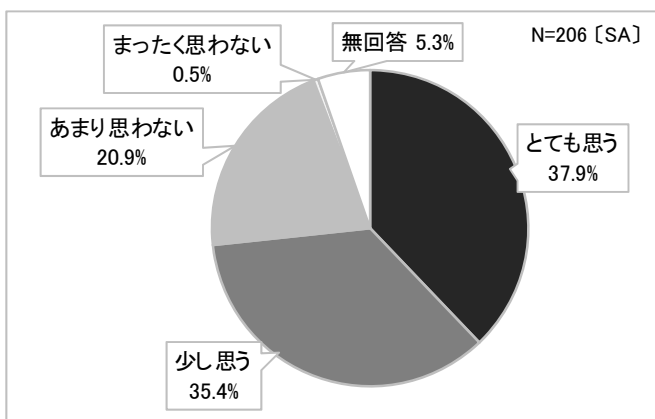


図 2.12. 子供の生活や考え方、進路への影響（保護者調査）

表 2.2. 生活や考え方、進路への影響の内容（自由記述）

- ・無人島で新しい自分を発見できたのか、小学校、中学校でもいじめは続いたが、不登校にならず登校できた。（父）
- ・自分は生き物や自然が好きだということが明確となり、進路は生き物に携わる方面を目指している。現在も水産高校に在学している。（母）
- ・今、看護学校に行っているのですが、参加したことで助けてもらう事、助けてあげる事のありがたさや喜びがわかったので、この進路を選んだのではないかと思います。（母）

④ 無人島体験事業に参加したスタッフへの影響

無人島体験事業が「自分の教育観に影響を与えている」と感じているスタッフは約9割

スタッフに、無人島体験事業が今の生活や考え方、教育観、キャリア形成に影響を与えていると思うか尋ねたところ、今の生活や考え方に影響を与えていると「思う」（「とても思う」＋「少し思う」）と回答したスタッフは85.9%、教育観に影響を与えていると「思う」と回答したのは89.4%、キャリア形成に影響を与えていると「思う」と回答したのは43.7%であった（図2.13.）。そこで、「思う」と回答した人に、どのような影響を受けたと思うか具体的に尋ねたところ、影響を受けた内容は表2.3.のとおりであった。

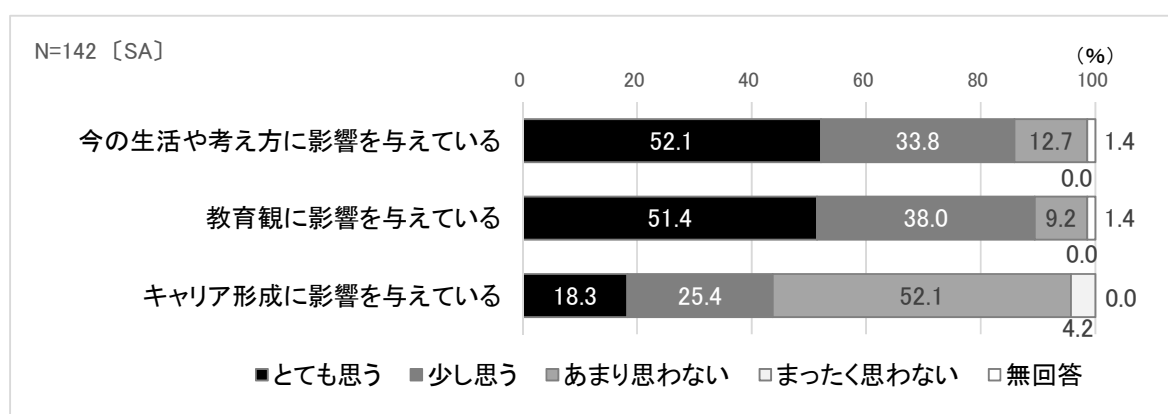


図 2.13. 無人島体験事業に参加したスタッフへの影響（スタッフ調査）

表 2.3. 無人島体験事業に参加したスタッフへの影響の内容（自由記述）

今の生活や考え方	<ul style="list-style-type: none"> 頼まれて参加し、行く前は何となく気が重かったが、参加すると楽しかった。その後も、行事で様々な体験活動をする機会があるが、自分が楽しんですることが子供たちのためになると思い、嫌でもすべて参加している。まずはやってみることをモットーにしている。(44歳、女性・養護教諭) すべて子供に考えさせるのではなく、必要なことをきちんと伝えてから自分たちで活動させる。大人がきっかけを作るようにするという考え方をもつようになった。(33歳、女性・教諭)
教育観	<ul style="list-style-type: none"> 子供に達成感や充実感（勝敗や成功・失敗に関わらず）を感じさせることのできるプロセスをどれだけ作り出せるか。授業でも行事でも、そういった視点で自分たち教師が何をすべきか考えるようになった。(45歳、男性・指導主事) 子供たちを信じ、待ってみようと思えるようになった。まずは失敗してもいいから、やってみようという姿勢で、いろいろなことにチャレンジしていくことが大切だと考えるようになった。(37歳、女性・養護教諭)
キャリア形成	<ul style="list-style-type: none"> この事業の事務局をしたことが、物資の手配や業者との折衝、指導者の体調や意欲の観察、イベントをする際の準備や片付け、病気やけが等の緊急時の対応等、教頭職を務めるときに役立っている。(49歳、男性・教頭) 社会教育主事の資格を取得し、社会教育の現場で働いてみたいと思うきっかけをくれた事業だったと思う。(48歳、男性・主幹教諭) 学校内では研修できない自然体験活動の指導にかかわる経験ができた。(26歳、女性・教諭)

(4) 無人島体験事業での経験や学習したことを生かして取り組んでみたいこと

無人島体験事業での経験や学びを生かして取り組んでみたいことは「教えたり、伝えたりすること」

過年度参加者に、無人島体験事業での経験や学習したことを生かして取り組んでみたいことについて自由記述で尋ねたところ、無人島体験事業で経験したことや学んだことを生かして、人に教えたり、伝えたりすることをしたといった記述が多くみられた(表 2.4.)。

表 2.4. 無人島体験事業での経験や学習したことを生かして取り組んでみたいこと (自由記述)

- ・ 自然体験を保育に取り入れていきたい。自然に触れる機会を増やすよう努力したい。(20 歳、女性)
- ・ 自然のすばらしさを子供達に伝えるような取組をしたい。(19 歳、男性)
- ・ 学校現場で働く予定なので、児童に生きる力をつけることができる教育をしていきたいと思います。(22 歳、女性)
- ・ 子供(自分より小さな子)と自然で触れ合うプログラムなどに参加し、無人島体験事業で学んだことを教えていきたい。(17 歳、女性)
- ・ 現在の目標は、児童のスポーツ、運動能力向上に関する科学を学びたいと思っている。このような体験が児童にどのような影響があるのかも調べてみたい。(17 歳、男性)
- ・ どんなことがあっても前向きに取り組む、海外など知らないところに行ったり、さまざまなことにチャレンジしてみたい。(12 歳、女性)
- ・ 今の経験を活かしてもう一度無人島にチャレンジしたい。(20 歳、男性)

3. 最近の生活の様子

(1) 過去1年間の体験活動の実施状況

一般の青少年に比べ、無人島体験事業の参加者のほうが「体験活動」を何度もしている割合が高く、特に「放課後や休日に行う遊びやスポーツ」、「地域行事（スポーツ大会、文化祭等）への参加」でその差が顕著であった。

過年度参加者に、過去1年間の体験活動（スポーツ、お手伝い、ボランティア、地域行事）の実施状況を尋ねたところ、「何度もした」の回答が多かった活動は「放課後や休日に体を動かす遊びやスポーツをすること」（60.9%）で、次いで「食事の支度、買い物、掃除などのお手伝いをすること」（47.0%）「地域のスポーツ大会や文化祭などの行事に参加すること」（36.6%）等であった（図3.1.）。

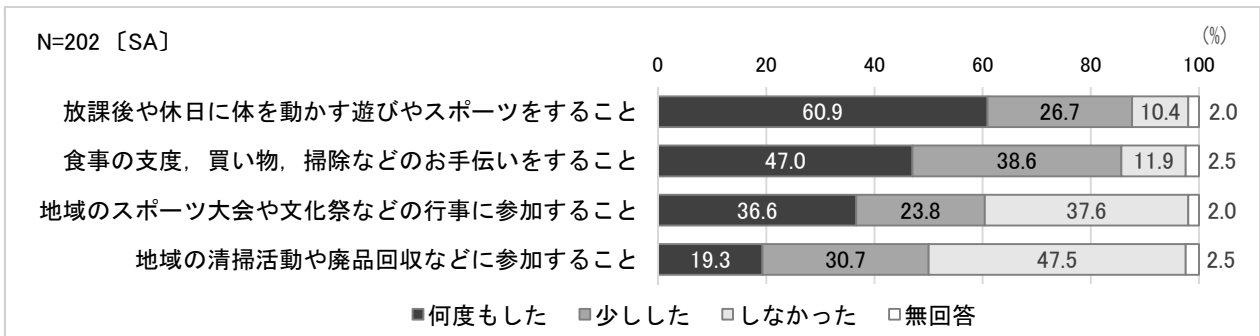
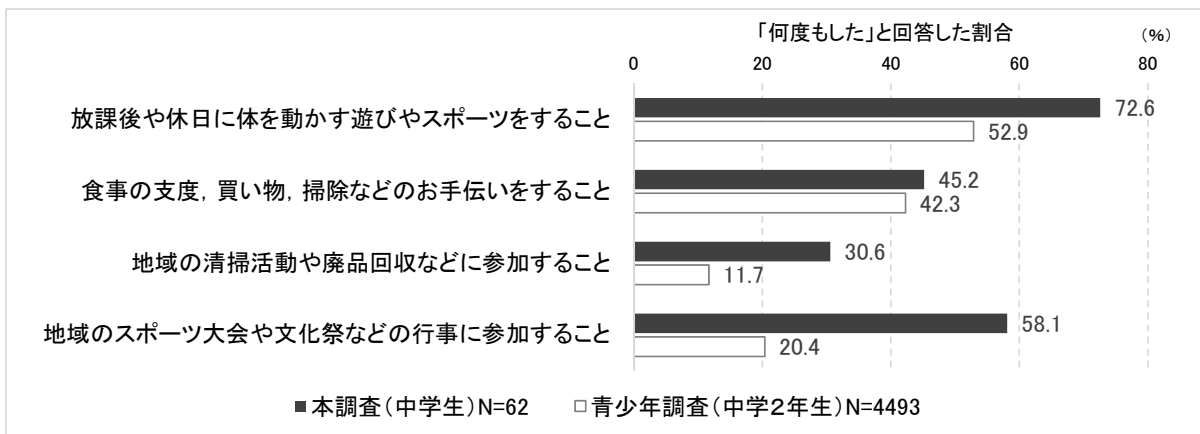


図 3.1. 過去1年間の体験活動の実施状況（参加者調査）

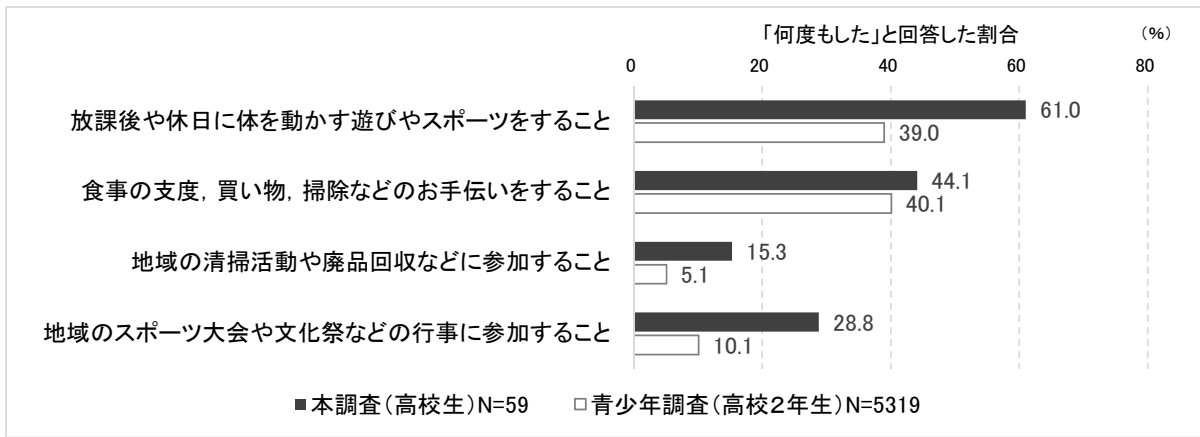
次に、無人島体験事業後の生活の様子として、過年度参加者と一般の青少年で体験活動の実施状況に差があるか検証するため、国立青少年教育振興機構が行った「青少年の体験活動等に関する実態調査（平成26年度調査）」（以下、「青少年調査」という。）の中学2年生、高校2年生のデータを基に比較を行った。

その結果、中学生、高校生ともに、過年度参加者のほうがいずれの体験活動でも「何度もした」と回答した割合が高くなっており、特に「放課後や休日に体を動かす遊びやスポーツをすること」「地域のスポーツ大会や文化祭などの行事に参加すること」でその差が顕著であった（図3.2.、図3.3.）。



参考: 国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する実態調査(平成26年度調査)」(平成28年)

図 3.2. 中学生の過去1年間の体験活動の実施状況の比較（参加者調査）



参考: 国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する実態調査(平成26年度調査)」(平成28年)

図 3.3. 高校生の過去1年間の体験活動の実施状況の比較 (参加者調査)

(2) 現在の生活に対する満足感

一般の青少年に比べ、無人島体験事業の参加者のほうが現在の生活に対して「とても満足」している割合が高く、特に「自分自身」や「学業の成績」に対する満足感でその差が顕著であった。

過年度参加者に、現在の生活に対する満足感を尋ねたところ、「とても満足」の回答が多かったのは「友人関係」(85.2%)で、次いで「余暇生活」(79.7%)「学校生活・職場生活」(77.2%)等となっていた(図3.4.)。

次に、過年度参加者と一般の青少年で現在の生活に対する満足感に差があるか検証するため、国立青少年教育振興機構が行った「高校生の生活と意識に関する調査 - 日本・米国・中国・韓国の比較 -」のデータを基に比較したところ、現在の生活に対して「とても満足」と回答した割合は、「余暇生活」を除き、過年度参加者のほうが高くなっており、特に「自分自身」や「学業の成績」に対する満足感でその差が顕著であった(図3.5.)。

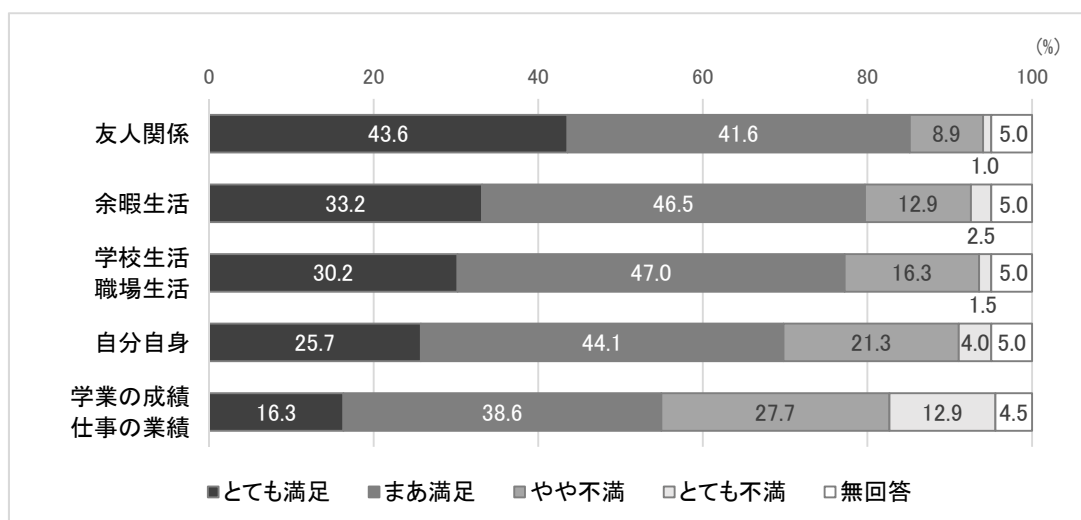
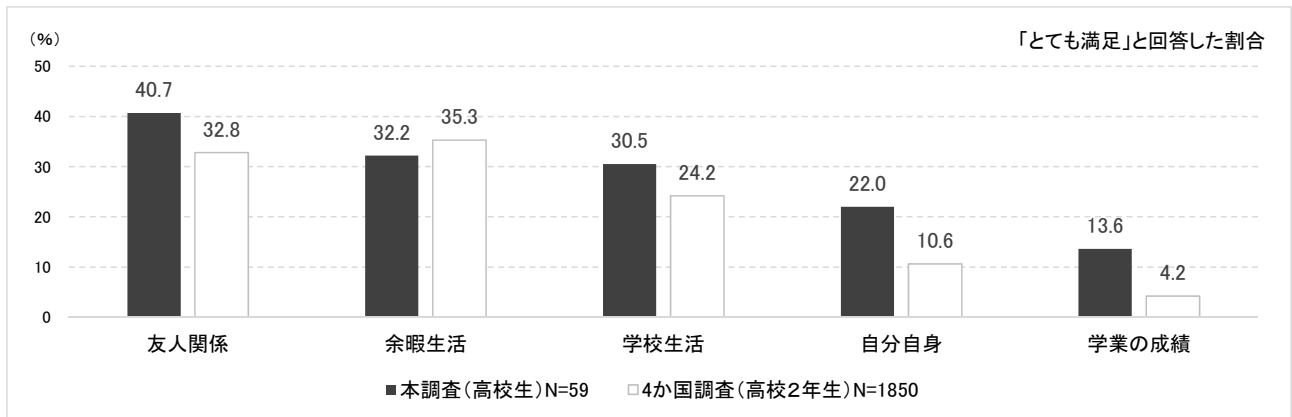


図 3.4. 現在の生活に対する満足感 (参加者調査)



参考: 国立青少年教育振興機構「高校生の生活と意識に関する調査-日本・米国・中国・韓国の比較-」(平成 27 年)

図 3.5. 高校生の現在の生活に対する満足感の比較 (参加者調査)

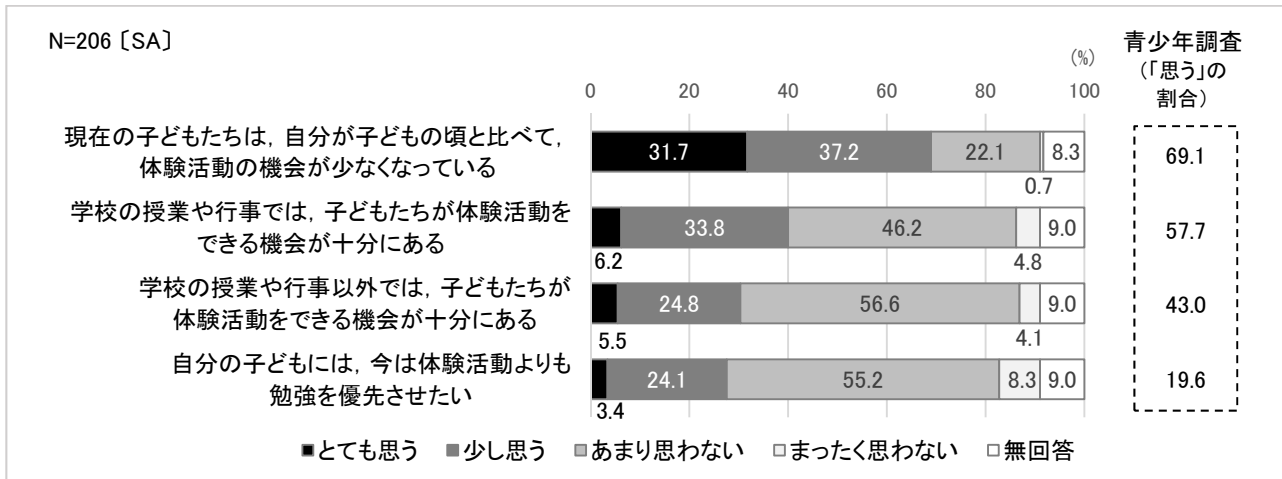
4. 保護者の子育てや教育に対する考え

(1) 子供の体験活動の現状に対する保護者の意識

7 割弱の保護者は「自分の子供の頃に比べ、今の子供たちは体験活動の機会が少なくなっている」と思っており、特に無人島体験事業の参加者の保護者は、一般の保護者に比べ、「体験活動ができる機会が十分にある」と思っている人が少ない。

年齢が 12～18 歳までの過年度参加者の保護者に、子供の体験活動の現状に対する考えについて尋ねたところ、「思う」（「とても思う」＋「少し思う」）の回答が多かったのは「現在の子供たちは、自分が子供の頃と比べて、体験活動の機会が少なくなっている」（68.9%）で、次いで「学校の授業や行事では、子供たちが体験活動ができる機会が十分にある」（40.0%）、「学校の授業や行事以外では、子供たちが体験活動ができる機会が十分にある」（30.3%）等であった（図 4.1.）。

次に、国立青少年教育振興機構が行った青少年調査の保護者データを基に、過年度参加者の保護者と一般の保護者で子供の体験活動の現状に対する考えを比較したところ、過年度参加者の保護者は、一般の保護者に比べ、「学校の授業や行事では、子供たちが体験活動ができる機会が十分にある」「学校の授業や行事以外では、子供たちが体験活動ができる機会が十分にある」と「思う」割合が 10 ポイント以上低くなっていることから、子供たちが体験活動ができる機会が十分でないと感じている保護者が多いことが分かった。



参考: 国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する実態調査(平成 26 年度調査)」(平成 28 年)

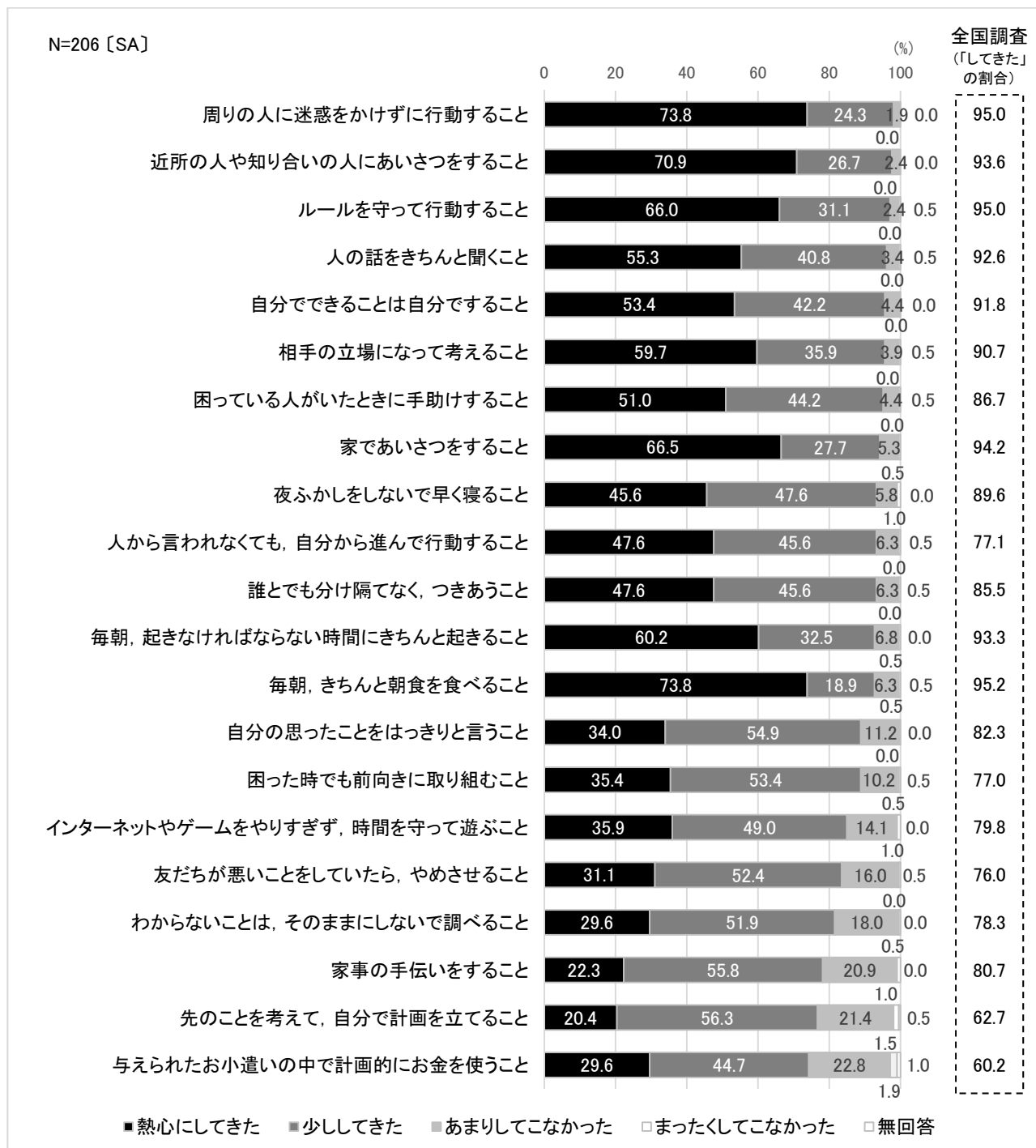
図 4.1. 子供の体験活動の現状に対する保護者の意識（保護者調査）

(2) 子供のしつけ

無人島体験事業の参加者の保護者は、一般の保護者に比べ、自分の子供に「自ら進んで行動すること」や「お小遣いの中で計画的にお金を使うこと」「先を考え、自分で計画を立てること」「困った時でも前向きに取り組むこと」を身につけさせようとしてきた人が多い。

過年度参加者の保護者に、子供を育てる上でどのような行動や生活習慣を身につけさせようとしてきたか尋ねたところ、「してきた」（「熱心にしてきた」＋「少ししてきた」）の回答が多かったのは「周りの人に迷惑をかけずに行動すること」（98.1%）で、次いで「近所の人や知り合いの人にあいさつをすること」（97.6%）、「ルールを守って行動すること」（97.1%）等であった（図 4.2.）。

次に、国立青少年教育振興機構が行った青少年調査の保護者データを基に、過年度参加者の保護者と一般の保護者で子供のしつけに対する考えを比較したところ、過年度参加者の保護者は、一般の保護者に比べ、「人から言われなくても、自分から進んで行動すること」「与えられたお小遣いの中で計画的にお金を使うこと」「先のことを考えて、自分で計画を立てること」「困った時でも前向きに取り組むこと」について「してきた」と回答した割合が10ポイント以上高くなっていた。



参考:国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する実態調査(平成26年度調査)」(平成28年)

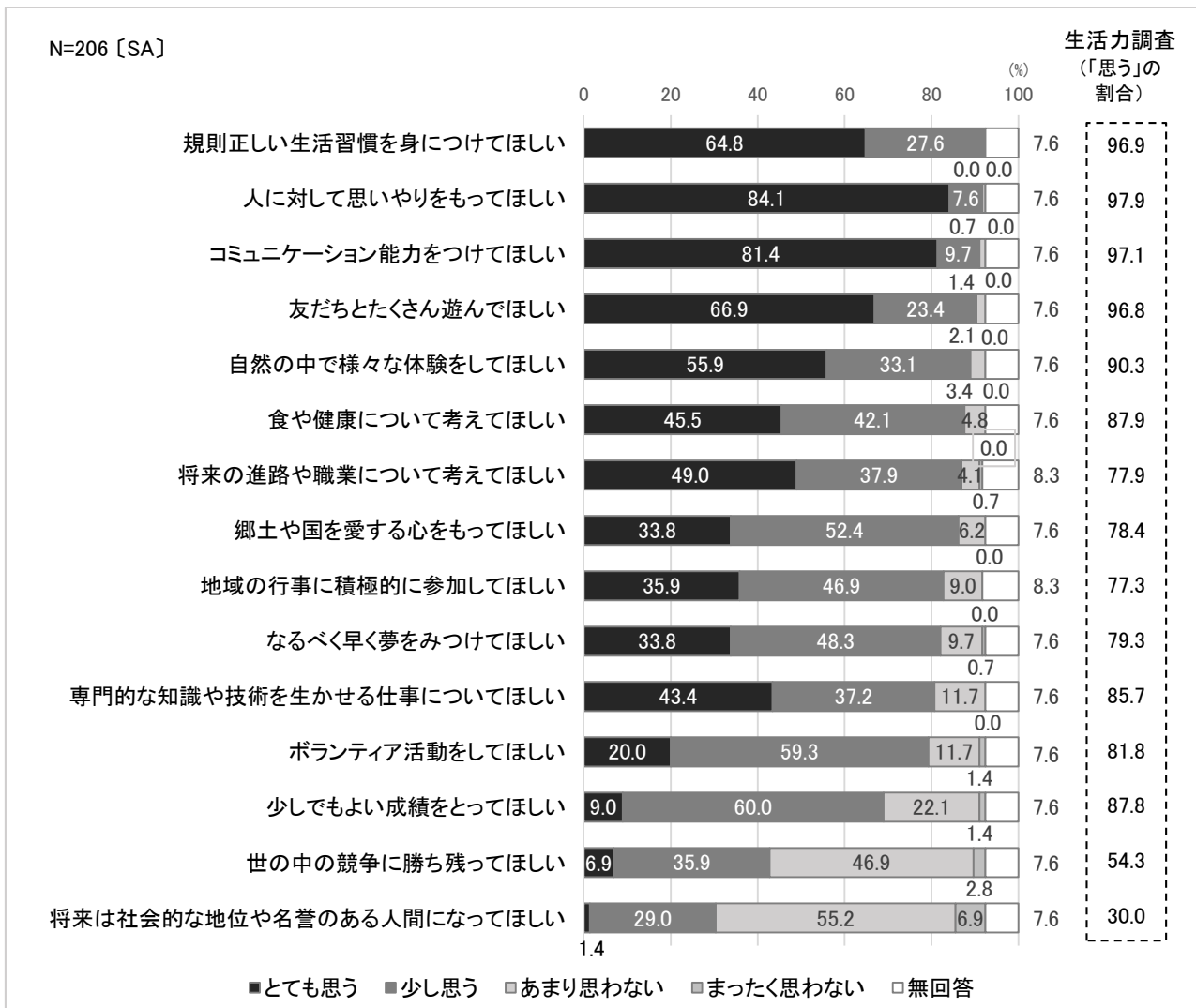
図4.2. 子供に身につけてほしいことややってほしいこと(保護者調査)

(3) 子供に身につけてほしいことや、やってほしいこと

無人島体験事業の参加者の保護者は、一般の保護者に比べ、自分の子供に「将来の進路や職業について考えてほしい」「郷土や国を愛する心をもってほしい」と思う人が多く、一方で「少しでもよい成績をとってほしい」「世の中の競争に勝ち残ってほしい」と思う人は少ない。

年齢が12～18歳までの過年度参加者の保護者に、子供に身につけてほしいことや、やってほしいこと等について尋ねたところ、「思う」（「とても思う」＋「少し思う」）の回答が多かったのは「規則正しい生活習慣を身につけてほしい」（92.4％）で、次いで「人に対して思いやりをもってほしい」（91.7％）、「コミュニケーション能力をつけてほしい」（91.1％）等であった（図4.3.）。

次に、国立青少年教育振興機構が行った「子供の生活力に関する調査研究」の保護者データを基に、過年度参加者の保護者と一般の保護者で子供に身につけてほしいことややってほしいことを比較したところ、過年度参加者の保護者は、一般の保護者に比べ、「将来の進路や職業について考えてほしい」「郷土や国を愛する心をもってほしい」と思っている割合が高く、一方で「少しでもよい成績をとってほしい」「世の中の競争に勝ち残ってほしい」と思っている割合が低かった。



参考: 国立青少年教育振興機構「子供の生活力に関する調査研究」(平成27年)

図4.3. 子供に身につけてほしいことや、やってほしいこと（保護者調査）

第3章 調査結果の考察

追跡調査からみえた長期自然体験活動の教育効果とその後の影響

青少年教育研究センター 研究員 青木 康太郎

過去10年間の「御五神島・無人島体験事業」（以下、「無人島体験事業」という。）の参加者とその保護者、過去30年の間にスタッフとして参画した教員（現在学校等に在籍の方）を対象に追跡調査を行った結果、無人島体験事業の教育効果やその後の生活、進路等に与える影響が明らかになった。

そこで、分析結果のまとめとして、無人島体験事業の追跡調査からみえた長期自然体験活動の教育効果とその後の影響について考察するとともに、これらの成果が得られたポイントとして、今後も無人島体験事業で大切にしてもらいたいことについて述べたいと思う。

1. 長期自然体験活動は青少年の自尊感情や意欲・関心など豊かな心や人間性を育む機会になっている

追跡調査の結果から、無人島体験事業の参加者（以下、「過年度参加者」という。）は、一般の青少年に比べ、自尊感情や共生感、意欲・関心、人間関係能力等が高い傾向がみられた。こうした傾向は、調査データの数値だけではなく、保護者やスタッフからみても「自信をもつようになった」「前向きな姿勢が見られるようになった」など具体的な変化としても表れていた。さらに、過年度参加者のほうが一般の青少年より自分自身に対する満足感が高かったことから、過年度参加者の自尊感情の高さがうかがえる。また、無人島体験事業の教育効果を検証する一つの視点として「自然に対する印象の違い」と「体験の力」との関係について分析したところ、自然の厳しさを感じた過年度参加者ほど「体験の力」が高くなる傾向がみられ、特に共生感でその傾向が顕著であった。

昨今の子どもたちをめぐる環境は、心や体を鍛えるための負荷がかからない、いわゆる「無重力状態」にあるといわれており、周りの大人もリスクを恐れるあまり子供に対して過保護になってしまい、青少年期に必要な体験の機会を奪っている面もあるといわれている。便利で快適な環境で暮らす今の子どもたちにとって、電気や水道のない無人島での野外生活や、初めて会う同年代の仲間との共同生活は、大人が想像する以上に精神的・身体的な負荷の高い体験になる。このような生活体験を10日間やり遂げるだけでも、参加者にとって大きな自信につながることは容易に想像できる。その上、こうした生活環境のもと、参加者は、無人島という過酷な自然と向き合いながら、仲間とぶつかり合い、打ち解け、互いに助け合える関係をうまく築いたり、その過程で今の自分を受け入れたり見つめ直したりするなど、様々な苦労や葛藤、努力などを経験することで、自尊感情や共生感、意欲・関心、人間関係能力といった体験の力が育まれていったのではないかと推察される。

また、この追跡調査の結果で注目すべき点は、こうした無人島体験事業を通じて身につけた力は、一過性のものではなく、時間が経過しても持続していた点である。中学生、高校生、20代と年齢ごとに一般の青少年と比較した結果、無人島体験事業から時間が経つにつれてその差は徐々に減少する傾向がみられたが、中学生、高校生の時期はいずれの体験の力も一般の青少年より高い状態にあった。無人島体験事業から長い時間が経過しているため、この結果が一概に無人島体験事業の教育効果だけによるものとは言えないが、長期自然体験活動の教育効果の持続や定着を示唆したという点では注目すべき結果だといえよう。

以上のことより、無人島体験事業のような長期自然体験活動は無重力状態にある現代の子どもたちを鍛え育てる良い機会になっており、こうした機会を通じて子どもたちの自尊感情や意欲・関心とい

った豊かな心や人間性が育まれていると考える。

2. 長期自然体験活動はその後の生活や考え方だけでなく、将来の進学や職業にも影響を与えている

追跡調査の結果、無人島体験事業により今の生活や考え方に影響を受けたと感じている過年度参加者は7割弱で、進路（進学、就職、将来の夢等）に影響を受けたと感じている過年度参加者は約3割であった。そこで、影響を受けた内容をみると、今の生活や考え方では「どんな環境におかれても自分の力を遺憾なく発揮し相手をより理解し、人間関係を築くことができると自負している。」「誰かに頼ったりするのではなく、自分からどう行動すればうまくいくのかを考えるようになった。」、進路では「保育の道へ進み、今、子どもたちとの関わりにおいて悩み苦しみつつも、働く保護者に代わって保育に日々奮闘している。」「自然や生物がより好きになり、水産系の学校に進学した。食事作りが楽しかったので、調理師になりたい。」といったことが挙げられていた。

また、過年度参加者の保護者に無人島体験事業の影響の有無について尋ねたところ、7割以上の保護者は無人島体験事業が「子どもの現在の生活や考え方、進路に影響を与えている」と回答した。そこで、影響を受けた内容をみると、「無人島で新しい自分を発見できたのか、小学校、中学校でもいじめは続いたが、不登校にならず登校できた。」「今、看護学校に行っているのですが、参加したことで助けてもらう事、助けてあげる事のありがたさや喜びがわかったので、この進路を選んだのではないかと思います。」といったことが挙げられていた。

無人島体験事業の参加者は、無人島で色々な活動に挑戦しながら自然・他者・自分と向き合い、それぞれのつながりの中で生じる多様な経験（葛藤、苦労、努力等）を重ねることで、自らの体験を通じて多くの気づきや学びを得ている。こうした気づきや学びは、時として心に残る思い出にもなる。本調査の結果、無人島体験事業での思い出がたくさんある過年度参加者ほど、今の生活や考え方、進路に影響を受けたと答える参加者が多くなる傾向がみられた。すなわち、無人島体験事業で思い出に残る気づきや学びを多く得た参加者は、その後の生活や考え方だけでなく、気づきや学びの事柄によっては、将来の進学や職業にも強く影響を受けたものと推察される。このように、長期自然体験活動はその後の生活や考え方だけでなく、将来の進学や職業にも影響を及ぼしているものと考えられる。

3. 今後も無人島体験事業で大切にしてもらいたいこと

(1) 自給自足や食事づくりといった「野外生活体験」

自給自足的な生活体験や食事づくりは、過年度参加者からは楽しい活動としての評価が高く、スタッフからは教育的な効果が高い活動として評価されている。また、こうした評価だけでなく、自給自足的な生活体験については、「バツヤやくもをから揚げにして食べるというプログラムを継続してほしい」「自給自足生活は今後も継続してほしい」と参加者から継続を希望する声も多い。食事づくりについては「食事づくりが楽しかったので、調理師になりたい」といった声もあり、将来の進路に影響を与える活動にもなっている。これらのことから、自給自足や食事づくりといった「野外生活体験」については、無人島体験事業のメインプログラムの一つとして引き続き大切にしてもらいたいと考える。

(2) 自然・他者・自分とのつながりとそこから得られる気づきや学び

無人島体験事業の教育効果やその後の影響は、自然・他者・自分のそれぞれのつながりの中で生じる多様な経験から得られる気づきや学びが土台になっている。例えば、過年度参加者の一番思い出に残っている出来事を見ると、「台風が近づいたとき、薪が濡れてダメになったり、テントが倒れたりで大変だったが、他の班と物々交換したり、バイト（仲間のために行う奉仕活動）をしてマッチをもらったりして何とかしのいだこと」が挙げられている。多少天候が厳しい日であっても、指

導者はそれを成長のチャンスと捉え、どのように自然と向き合い、どう対応していけばいいのか仲間と考え、実践してみるよう参加者に促してみることで、自然・他者・自分とのつながりの中で生じる多様な気づきや学びが得られる機会を作ることができる。指導者は、こうした機会をたくさん作れるように、自然・他者・自分とのつながりに目を大切にしてもらいたい。

(3) 教員がグループリーダーを担うこと

長期自然体験活動では大学生のボランティアがグループリーダーを担うことが多く、教員がグループリーダーを担っていることはこの無人島体験事業の特徴の一つといえる。組織キャンプにおいて、グループリーダーはキャンパーにとって憧れの存在になりやすく、キャンパーを指導するその姿は人生の先輩としていいロールモデルになるといわれている。教員がグループリーダーをする姿をみて、将来、自分もあのような教師や指導者になりたいと憧れを抱く参加者は多少なりともいるのではないだろうか。追跡調査の結果をみても、無人島体験事業の経験を生かして子どもたちに自然の素晴らしさを教えたり伝えたりしたいといった声が聞かれただけでなく、既に保育士として活躍している参加者や今後学校で働く予定の参加者もいた。このことから、教員がグループリーダーを担うことは、子どもたちに教員や自然体験の指導者になりたいという思いを芽吹かせるいい機会になっていると思われる。そのため、この無人島体験事業の特徴の一つとして、引き続き教員がグループリーダーを担う指導体制を続けてもらいたい。

資 料

平成 29 年度 ^{お い つ か み じ ま} 御五神島・無人島体験事業

— 出会い、発見、ゆめ体験 in 御五神島！ —



参加者募集

主 催：無人島チャレンジ実行委員会
 NPO 法人えひめ子どもチャレンジ支援機構
 後 援：愛媛県教育委員会 宇和島市教育委員会
 愛媛県教育会 愛媛県PTA連合会

児童・生徒のみなさんへ

この活動は、真夏に県内各地から小中学生が集まって、宇和島市沖の御五神島で一週間の無人島生活を体験するものです。御五神島では電気やガスはもちろん、水洗トイレやお風呂もありません。不便な環境で、班で協力しながら一日三度の食事を作り、日暮れとともに仲間とテントで寝るといった生活を行います。ここでしか得られない貴重な体験が、参加者をたくましく成長させてくれるでしょう。今年はこの活動がスタートして30年目にあたり、記念行事も予定しています。

そこで、○身の回りのことは自分でできる、○無人島生活に耐えられる健康な身体と体力をもっている、○仲間といっしょに行動することが好き、○不便や不足を我慢したり工夫したりできる、○この体験を通してリーダーとして活躍したい、こんな意欲や心構えを持つ参加者を募集します。応募にあたっては、お家の方や担任の先生、養護の先生等ともよく相談してください。みなさんの応募を待っています。



【主な活動内容・場所】 ※ 活動内容は、天候等により変更になる場合があります

月日（曜日）	活 動 内 容	場 所
7月30日（日）	開会式、オリエンテーション、テント設営等実習	大洲青少年交流の家
31日（月）	班別活動計画作成、生活資材仕分、荷造り等	大洲青少年交流の家・下灘公民館
8月1日（火）	御五神島入島、テント設営、食事作り	御五神島（無人島）
2日（水）	食事作り、生活用品作り	御五神島（無人島）
3日（木）	食事作り、シュノーケリング、つり	御五神島（無人島）
4日（金）	食事作り、テントサイトコンテスト	御五神島（無人島）
5日（土）	自給自足的生活体験	御五神島（無人島）
6日（日）	食事作り、スタンプ練習、キャンプファイアー	御五神島（無人島）
7日（月）	撤収作業、離島、資材整理	御五神島・大洲青少年交流の家
8日（火）	感想文作成、閉会式、記念撮影	大洲青少年交流の家

※ 事業期間中は、小中学校の教員が班の指導者（リーダー）になるとともに、看護師や養護教諭、大学生、ボランティア等が指導にあたります。

【準備物】衣類（シャツ、ズボン、下着、くつ下等）、タオル、水筒、帽子、洗面用具、レインコート、ウエストバッグ、懐中電灯、寝具、軍手、筆記用具等

※ 参加決定者には、後日、詳細な資料（日程、準備物等）を郵送します。

【募集対象者】 県内在住の小学5年生～中学3年生

【募集人数】 48名(男子30名、女子18名)※今年度は女子参加者を6名多く募集します。

【参加費】 25,000円

保護者のみなさんへのお知らせとお願い

参加者48名全員の安全を確保し、体験活動の円滑な実施のため、次の注意事項についてご確認ください。

- 暑い中で長期間のキャンプ生活を乗り切ることのできる体力が必要です。応募にあたっては、健康や体力について慎重に判断してください。
- 7月30日(日)から8月8日(火)までの全日程に参加できることが条件です。
- 以下に該当する御子様は、応募をご遠慮ください。
 - ・アナフィラキシーショックを伴うようなアレルギー体質がある。
 - ・日常生活、運動時、夜間に特別な配慮が必要と医師から診断されている。
(宇和島市内の病院搬送に約2時間かかることや、夜中に狭いテント内で就寝している該当者を起こすことができないため)
 - ・感染症にかかっている。(身体接触の多い共同生活をするため)
- 集合・解散場所(国立大洲青少年交流の家)への送迎は、保護者の方でお願いします。
- 参加者は、全員「スポーツ安全保険」に加入します。(保険料は参加費に含む)
- 事業の啓発のため、活動中の写真をNPO法人えひめ子どもチャレンジ支援機構のホームページや活動報告書等に掲載しますので、あらかじめご了承ください。
- 参加者の安全管理・事故防止については万全を期し、気象情報の確認や避難経路の確保、水質検査やイノシシ対策の防護柵等の対策をとって事業を実施しますが、台風や地震等により事業の中止、または事業の全部あるいは一部を竹ヶ島(御五神島の東約6km・有人島)に変更して実施することもあります。
- **ケガや発病等により、ご家庭に連絡し、お子様を自宅に連れて帰っていただく場合がありますので、保護者の方は事業実施期間中、必ず連絡が取れるようお願いいたします。**
- 本事業の様子は、ホームページ(<http://kochall.org/>)に掲載しています。

~~~~~ 申込みについて ~~~~~

- (1) ✕ 切り **平成29年6月16日(金)消印有効**
- (2) 申込み方法 **往復ハガキに必要事項を記入して、下記までお申込みください。**
※摩擦熱で消えるインクは使用しないようにお願いします。

〔往信の宛名面〕 〔返信の文面〕 〔返信の宛名面〕 〔往信の文面〕

<p>※ 下記の申込み先住所、宛先を記入してください。</p>	<p>※ この面は、抽選の結果を記入して返信しますので、記入しないでください。</p>	<p>郵便番号</p> <p>自分の名前</p> <p>自分の住所</p>	<p>1 氏名・(性別)</p> <p>2 学校名・学年</p> <p>3 保護者氏名 ㊞</p> <p>4 郵便番号・住所</p> <p>5 電話番号</p> <p>6 応募した理由</p>
---------------------------------	---	---------------------------------------	--

※ 応募ハガキに記載された個人情報は、本事業においてのみ使用させていただきます。

<申込み先及び問合せ先>

〒790-8570 松山市一番町4丁目4-2

無人島チャレンジ実行委員会事務局(愛媛県教育委員会事務局生涯学習課内)

参加者募集担当(中島) TEL: 089-912-2933 FAX: 089-912-2929

- (3) 申込み上の注意
以前にこの事業に参加した人は、申し込むことができません。

- (4) 参加決定
参加申込み多数の場合は、抽選にて参加者を決定します。応募の結果は、実行委員会から7月上旬にハガキで通知します。



平成29年度 御五神島・無人島体験事業 日程概略

主な活動	1日目 7/30(日)	2日目 7/31(月)	3日目 8/1(火)	4日目 8/2(水)	5日目 8/3(木)	6日目 8/4(金)	7日目 8/5(土)	8日目 8/6(日)	9日目 8/7(月)	10日目 8/8(火)
開会式・実習	大洲青少年交流の家	入島準備・津島へ移動	入島・テント設営	テントサイト整備	海での活動	テントサイトコンテスト	自給自足的な生活	キャンプファイヤー	撤収・離島	感想文・閉会式
宿泊地	大洲青少年交流の家	下灘公民館	御五神島	御五神島	御五神島	御五神島	御五神島	御五神島	大洲青少年交流の家	大洲青少年交流の家
5:00			起床・洗面・朝のつどい	起床(5:00) 朝のつどい(5:20) 朝食準備	起床(5:00) 朝のつどい(5:20) 朝食準備	起床(5:00) 朝のつどい(5:20) 朝食準備	起床(5:00) 朝のつどい(5:20) 朝食準備	起床(5:00) 朝のつどい(5:20) 朝食準備	起床(5:00) 朝のつどい(5:20) 朝食	起床(5:00) 朝のつどい(5:20) 朝食
6:00			朝食・清掃	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
7:00			班旗作成	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
8:00			班活動	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
9:00			班活動	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
9:00			班活動	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
9:00			班活動	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
10:00			班活動	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
10:00			班活動	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
11:00			班活動	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
12:00			班活動	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
13:00			班活動	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
14:00			班活動	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
15:00			班活動	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
16:00			班活動	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
17:00			班活動	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
18:00			班活動	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
18:45			班活動	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
20:00			班活動	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
21:00			班活動	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
22:00			班活動	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
23:00			班活動	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食

備考 活動内容等は、天候等により変更になる場合がある。 8月5日(土)は視察の日

単純集計結果

・パーセントの数値は少数点以下第2位を四捨五入しているため、択一式の質問項目であっても、その和は必ずしも100.0%に一致しない。

【参加者調査】

[1-1] あなたの氏名と年齢をお書きください。

記述	度数	%
11	4	2.0
12	19	9.4
13	23	11.4
14	13	6.4
15	31	15.3
16	20	9.9
17	19	9.4
18	19	9.4
19	17	8.4
20	19	9.4
21	10	5.0
22	6	3.0
23	1	0.5
25	1	0.5
合計	202	100.0

[1-2]あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

選択肢	度数	%
男性	141	69.8
女性	60	29.7
無回答	1	0.5
合計	202	100.0

[1-3]あなたが現在通っている学校に○を1つ付け、その学年を()にお書きください。
(学校別)

選択肢	度数	%
小学校	7	3.8
中学校	62	33.9
高等学校	59	32.2
専門学校	6	3.3
高等専門学校	7	3.8
短期大学	2	1.1
大学	37	20.2
大学院	2	1.1
その他	1	0.5
合計	183	100.0

(学年別)

記述	度数	%
小学校6年	7	3.3
中学校1年	26	12.4
中学校2年	20	9.5
中学校3年	15	7.1
高等学校1年	29	13.8
高等学校2年	12	5.7
高等学校3年	16	7.6
高等専門学校1年	2	1
高等専門学校2年	1	0.5
高等専門学校3年	3	1.4
高等専門学校4年	1	0.5
専門学校1年	4	1.9
専門学校2年	1	0.5
専門学校3年	1	0.5
短期大学2年	2	1
大学1年	14	6.7
大学2年	11	5.2
大学3年	9	4.3
大学4年	3	1.4
大学院1年	1	0.5
大学院2年	1	0.5
無回答	31	14.8
合計	210	100.0

[1-4]あなたの現在の職業についてお答えください。(〇は1つ)

選択肢	度数	%
会社員(正社員)	13	65.0
公務員(教職員を除く)	1	5.0
教職員	1	5.0
自営業	1	5.0
パート、アルバイト	1	5.0
無職	2	10.0
その他	1	5.0
合計	20	100.0

[2]あなたは、次のことについて自分にどのくらい当てはまると感じますか。(〇は1つずつ)

質問項目	とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	合計
自分のことが好きである	53 26.2	95 47.0	40 19.8	8 4.0	6 3.0	202 100.0
家族を大切にできる人間だと思う	80 39.6	94 46.5	19 9.4	4 2.0	5 2.5	202 100.0
学校が好きである	77 38.1	88 43.6	25 12.4	5 2.5	7 3.5	202 100.0
今、住んでいる町が好きである	112 55.4	68 33.7	15 7.4	2 1.0	5 2.5	202 100.0
日本が好きである	141 69.8	50 24.8	4 2.0	1 0.5	6 3.0	202 100.0
休みの日は自然の中で過ごすことが好きである	65 32.2	84 41.6	42 20.8	5 2.5	6 3.0	202 100.0
動物園や水族館などに行くのが好きである	75 37.1	70 34.7	41 20.3	11 5.4	5 2.5	202 100.0
悲しい体験をした人の話を聞くとつらくなる	95 47.0	71 35.1	22 10.9	9 4.5	5 2.5	202 100.0
友達がとても幸せな体験をしたことを知ったら、私までうれしくなる	75 37.1	88 43.6	27 13.4	5 2.5	7 3.5	202 100.0
人から無視されている人のことが心配になる	79 39.1	87 43.1	24 11.9	7 3.5	5 2.5	202 100.0
もっと深く学んでみたいことがある	110 54.5	56 27.7	30 14.9	1 0.5	5 2.5	202 100.0
なんでも最後までやり遂げたい	95 47.0	75 37.1	26 12.9	1 0.5	5 2.5	202 100.0
経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい	99 49.0	66 32.7	28 13.9	3 1.5	6 3.0	202 100.0
分からないことはそのままにしないで調べたい	75 37.1	84 41.6	36 17.8	2 1.0	5 2.5	202 100.0
いろいろな国に行ってみたい	107 53.0	42 20.8	34 16.8	14 6.9	5 2.5	202 100.0
叱るべき時はちゃんと叱れる親が良いと思う	123 60.9	64 31.7	9 4.5	1 0.5	5 2.5	202 100.0
交通規則など社会のルールは守るべきだと思う	146 72.3	50 24.8	1 0.5	0 0.0	5 2.5	202 100.0
電車やバスの中で化粧や整髪をしても良いと思う	13 6.4	24 11.9	76 37.6	82 40.6	7 3.5	202 100.0
電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う	129 63.9	64 31.7	2 1.0	1 0.5	6 3.0	202 100.0
他人をいじめている人がいると、腹が立つ	96 47.5	83 41.1	15 7.4	3 1.5	5 2.5	202 100.0
人前でも緊張せずに自己紹介ができる	35 17.3	70 34.7	76 37.6	16 7.9	5 2.5	202 100.0
けんかをした友達を仲直りさせることができる	45 22.3	77 38.1	63 31.2	12 5.9	5 2.5	202 100.0
近所の人に挨拶ができる	113 55.9	73 36.1	9 4.5	2 1.0	5 2.5	202 100.0
初めて会った人とでもすぐに話ができる	68 33.7	68 33.7	50 24.8	10 5.0	6 3.0	202 100.0
友達に相談されることがよくある	73 36.1	64 31.7	43 21.3	17 8.4	5 2.5	202 100.0
自分にはなりたいた職業や、やってみたい仕事がある	117 57.9	52 25.7	23 11.4	7 3.5	3 1.5	202 100.0
大人になったら仕事をするべきだと思う	163 80.7	29 14.4	6 3.0	1 0.5	3 1.5	202 100.0
できれば、社会や人のためになる仕事をしたいと思う	132 65.3	47 23.3	16 7.9	4 2.0	3 1.5	202 100.0
お金が十分にあれば、できれば仕事はやりたくないと思う	28 13.9	56 27.7	61 30.2	54 26.7	3 1.5	202 100.0

今が楽しければ、それでいいと思う	54 26.7	63 31.2	58 28.7	24 11.9	3 1.5	202 100.0
お盆やお彼岸にはお墓参りに行くべきだと思う	105 52.0	71 35.1	20 9.9	3 1.5	3 1.5	202 100.0
目上や年下の人と話すときは丁寧な言葉を使うことができる	113 55.9	69 34.2	16 7.9	1 0.5	3 1.5	202 100.0
ひな祭りや子どもの日、七夕、お月見などの年中行事が楽しみだ	70 34.7	69 34.2	48 23.8	12 5.9	3 1.5	202 100.0
はしを上手く使うことができる	111 55.0	61 30.2	22 10.9	5 2.5	3 1.5	202 100.0
日本の昔話を話すことができる	62 30.7	65 32.2	61 30.2	10 5.0	4 2.0	202 100.0
何事も前向きに取り組むことができる	75 37.1	83 41.1	35 17.3	6 3.0	3 1.5	202 100.0
どんなに難しいことでも、努力をすれば自分の力でやり遂げられる	62 30.7	86 42.6	44 21.8	6 3.0	4 2.0	202 100.0
厳しく叱られてもくじけぬ	58 28.7	93 46.0	41 20.3	7 3.5	3 1.5	202 100.0
失敗してもあきらめずにもう一度挑戦することができる	70 34.7	94 46.5	31 15.3	4 2.0	3 1.5	202 100.0
ひどく落ち込んだ時でも、時間をおけば元気にふるまえる	117 57.9	62 30.7	17 8.4	3 1.5	3 1.5	202 100.0

[3-1]あなたは、この1年間に、学校の授業や行事以外で、以下の体験をしましたか。(○は1つずつ)

質問項目	何度もした	少しした	しなかった	無回答	合計
放課後や休日に体を動かす遊びやスポーツをすること	123 60.9	54 26.7	21 10.4	4 2.0	202 100.0
食事の支度、買い物、掃除などのお手伝いをすること	95 47.0	78 38.6	24 11.9	5 2.5	202 100.0
体の不自由な人、お年寄り、困っている人などの手助けをすること	53 26.2	97 48.0	48 23.8	4 2.0	202 100.0
地域の清掃活動や廃品回収などに参加すること	39 19.3	62 30.7	96 47.5	5 2.5	202 100.0
地域のスポーツ大会や文化祭などの行事に参加すること	74 36.6	48 23.8	76 37.6	4 2.0	202 100.0

[3-2]あなたは、日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っていますか。それとも、あまりそのようなことは考えていませんか。(○は1つ)

選択肢	度数	%
思っている	108	53.5
あまり考えていない	63	31.2
わからない	24	11.9
無回答	7	3.5
合計	202	100.0

[3-3]あなたは、特に運動やスポーツもしないのに、ふだん疲れていると感じることがありますか。(○は1つ)

選択肢	度数	%
よくある	30	14.9
時々ある	77	38.1
ほとんどない	55	27.2
まったくない	28	13.9
無回答	12	5.9
合計	202	100.0

[3-4]あなたは、次のことについて、どのくらい満足していますか。(○は1つずつ)

質問項目	とても満足	まあ満足	やや不満	とても不満	無回答	合計
余暇生活	67 33.2	94 46.5	26 12.9	5 2.5	10 5.0	202 100.0
学校生活(学生の方)／職場生活(社会人の方)	61 30.2	95 47.0	33 16.3	3 1.5	10 5.0	202 100.0
自分自身	52 25.7	89 44.1	43 21.3	8 4.0	10 5.0	202 100.0
友人関係	88 43.6	84 41.6	18 8.9	2 1.0	10 5.0	202 100.0
学業の成績(学生の方)／仕事の業績(社会人の方)	33 16.3	78 38.6	56 27.7	26 12.9	9 4.5	202 100.0

[4-1]あなたが参加した「御五神島・無人島体験事業」は何年度ですか。(〇は1つ)

選択肢	度数	%
平成28年度	25	12.4
平成27年度	27	13.4
平成26年度	20	9.9
平成25年度	17	8.4
平成24年度	20	9.9
平成23年度	17	8.4
平成22年度	15	7.4
平成21年度	13	6.4
平成20年度	7	3.5
平成19年度	11	5.4
分からない	14	6.9
無回答	16	7.9
合計	202	100.0

[4-2]「御五神島・無人島体験事業」に参加した理由は何ですか。(〇は1つ)

選択肢	度数	%
自分で行きたいと思ったから	133	65.8
きょうだいに参加するから	4	2.0
友だちに誘われたから	8	4.0
親に勧められたから	41	20.3
先生に勧められたから	6	3.0
その他	4	2.0
無回答	6	3.0
合計	202	100.0

[4-3]「御五神島・無人島体験」の中で楽しかった活動はどれですか。あてはまるものすべてに〇をつけてください。

選択肢	度数	%
テント設営	52	25.7
食事づくり	130	64.4
生活用品づくり(食器棚、洗濯物干し等)	80	39.6
海水浴	78	38.6
シュノーケリング	105	52.0
つり	80	39.6
テントサイトコンテスト	69	34.2
自給自足的な生活体験	143	70.8
キャンプファイア	96	47.5
その他	12	5.9
楽しかった活動はない	1	0.5

[4-4]「御五神島・無人島体験事業」では元気に活動できましたか。(〇は1つ)

選択肢	度数	%
元気に活動できた	155	76.7
体調を崩した時もあったが、ほぼ元気に活動できた	34	16.8
体調を崩してしまい、あまり活動できなかった	3	1.5
覚えていない	2	1.0
無回答	8	4.0
合計	202	100.0

[4-5]「御五神島・無人島体験事業」での天候はどうでしたか。(〇は1つ)

選択肢	度数	%
ほとんどおだやかだった	114	56.4
厳しい日もあった	51	25.2
厳しい日が多かった	23	11.4
覚えていない	11	5.4
無回答	3	1.5
合計	202	100.0

[4-6]「御五神島・無人島体験事業」について今でも思い出に残っている出来事がありますか。(〇は1つ)

選択肢	度数	%
たくさんある	112	55.4
少しある	67	33.2
あまりない	19	9.4
まったくない	0	0.0
無回答	4	2.0
合計	202	100.0

[4-7]「御五神島・無人島体験事業」で体験したことが、今のあなたの生活や考え方に影響を与えていると思いますか。(〇は1つ)

選択肢	度数	%
とても思う	72	35.6
少し思う	64	31.7
あまり思わない	57	28.2
まったく思わない	4	2.0
無回答	5	2.5
合計	202	100.0

[4-8]「御五神島・無人島体験事業」で体験したことが、あなたの進路(進学、就職等)に影響を与えていると思いますか。(〇は1つ)

選択肢	度数	%
とても思う	28	13.9
少し思う	36	17.8
あまり思わない	119	58.9
まったく思わない	14	6.9
無回答	5	2.5
合計	202	100.0

[4-9]「御五神島・無人島体験事業」で出会った参加者と今でも交流を続けていますか。(〇は1つ)

選択肢	度数	%
続けている	35	17.3
以前はしていたが、今はしていない	78	38.6
したことがない	84	41.6
無回答	5	2.5
合計	202	100.0

※「続けている」「以前はしていたが、今はしていない」に〇をつけた人のみ
(N=113)

選択肢	度数	%
Facebook、LINE、TwitterなどのSNS	27	23.9
メール	12	10.6
手紙	68	60.2
電話	9	8.0
直接会った	29	25.7
その他	21	18.6

[4-10]「御五神島・無人島体験事業」の後、あなたは、学校の授業や行事以外で、他の施設や団体が行っている自然体験の事業や行事に参加したことがありますか。(〇は1つ)

選択肢	度数	%
何度も参加したことがある	31	15.3
数回参加したことがある	55	27.2
参加したことはない	109	54.0
無回答	7	3.5
合計	202	100.0

[4-11]「御五神島・無人島体験事業」にボランティアスタッフとして参加してみたいと思いますか。(〇は1つ)

選択肢	度数	%
とても思う	62	30.7
少し思う	83	41.1
あまり思わない	41	20.3
まったく思わない	10	5.0
無回答	6	3.0
合計	202	100.0

[4-12]あなたは、将来、自分の子どもを「御五神島・無人島体験事業」に参加させたいと思いますか。(〇は1つ)

選択肢	度数	%
とても思う	96	47.5
少し思う	89	44.1
あまり思わない	11	5.4
まったく思わない	1	0.5
無回答	5	2.5
合計	202	100.0

[4-13]今後も「御五神島・無人島体験事業」で継続してほしいプログラムや、新たに取り組んでみたいと思うプログラムがありましたらご自由にお書きください。
(自由記述につき、省略)

[4-14]「御五神島・無人島体験事業」での経験や学習したことを生かして、今後取り組んでみたいことなどがありましたらご自由にお書きください。
(自由記述につき、省略)

【保護者調査】

「御五神島・無人島体験事業」に参加したお子さんの氏名とあなたの続柄をお書きください。

記述	度数	%
父	30	14.6
母	168	81.6
その他	5	2.4
無回答	3	1.5
合計	206	100.0

〔2-1〕あなたは、お子さんを育てる上で、次のような行動や習慣をどのくらい身につけさせようとしてきましたか。(○は1つずつ)

質問項目	熱心にしてきた	少ししてきた	あまりしてこなかった	まったくしてこなかった	無回答	合計
夜ふかしをしないで早く寝ること	94 45.6	98 47.6	12 5.8	2 1.0	0 0.0	2 1.0
毎朝、起きなければならない時間にきちんと起きること	124 60.2	67 32.5	14 6.8	1 0.5	0 0.0	1 0.5
毎朝、きちんと朝食を食べること	152 73.8	39 18.9	13 6.3	1 0.5	1 0.5	2 1.0
家事の手伝いをすること	46 22.3	115 55.8	43 20.9	2 1.0	0 0.0	2 1.0
与えられたお小遣いの中で計画的にお金を使うこと	61 29.6	92 44.7	47 22.8	4 1.9	2 1.0	6 2.9
家で「おはようございます」「いってきます」「ただいま」「おやすみなさい」といったあいさつをすること	137 66.5	57 27.7	11 5.3	1 0.5	0 0.0	1 0.5
近所の人や知り合いの人に「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」といったあいさつをすること	146 70.9	55 26.7	5 2.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
インターネットやコンピューターゲームを長時間やりすぎず、時間を守って遊ぶこと	74 35.9	101 49.0	29 14.1	2 1.0	0 0.0	2 1.0
自分の思ったことをはっきりと言うこと	70 34.0	113 54.9	23 11.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0
周りの人に迷惑をかけずに行動すること	152 73.8	50 24.3	4 1.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
自分でできることは自分ですること	110 53.4	87 42.2	9 4.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
わからないことは、そのままにしないで調べること	61 29.6	107 51.9	37 18.0	1 0.5	0 0.0	1 0.5
先のことを考えて、自分で計画を立てること	42 20.4	116 56.3	44 21.4	3 1.5	1 0.5	4 1.9
困った時でも前向きに取り組むこと	73 35.4	110 53.4	21 10.2	1 0.5	1 0.5	2 1.0
人から言われなくても、自分から進んで行動すること	98 47.6	94 45.6	13 6.3	0 0.0	1 0.5	1 0.5
誰とでも分け隔てなく、つきあうこと	98 47.6	94 45.6	13 6.3	0 0.0	1 0.5	1 0.5
人の話をきちんと聞くこと	114 55.3	84 40.8	7 3.4	0 0.0	1 0.5	1 0.5
困っている人がいたときに手助けすること	105 51.0	91 44.2	9 4.4	0 0.0	1 0.5	1 0.5
相手の立場になって考えること	123 59.7	74 35.9	8 3.9	0 0.0	1 0.5	1 0.5
ルールを守って行動すること	136 66.0	64 31.1	5 2.4	0 0.0	1 0.5	1 0.5
友だちが悪いことをしていたら、やめさせること	64 31.1	108 52.4	33 16.0	0 0.0	1 0.5	1 0.5

〔2-2〕あなたは、お子さんに対して次のように思いますか。(○は1つずつ)

質問項目	とても思う	少し思う	あまり思わない	まったく思わない	無回答	合計
将来は社会的な地位や名誉のある人間になってほしい	2 1.4	42 29.0	80 55.2	10 6.9	11 7.6	145 100.0
世の中の競争に勝ち残ってほしい	10 6.9	52 35.9	68 46.9	4 2.8	11 7.6	145 100.0
少しでもよい成績をとってほしい	13 9.0	87 60.0	32 22.1	2 1.4	11 7.6	145 100.0
なるべく早く夢をみつけてほしい	49 33.8	70 48.3	14 9.7	1 0.7	11 7.6	145 100.0

将来の進路や職業について考えてほしい	71	55	6	1	12	145
	49.0	37.9	4.1	0.7	8.3	100.0
専門的な知識や技術を生かせる仕事についてほしい	63	54	17	0	11	145
	43.4	37.2	11.7	0.0	7.6	100.0
ボランティア活動をしてほしい	29	86	17	2	11	145
	20.0	59.3	11.7	1.4	7.6	100.0
自然の中で様々な体験をしてほしい	81	48	5	0	11	145
	55.9	33.1	3.4	0.0	7.6	100.0
地域の行事に積極的に参加してほしい	52	68	13	0	12	145
	35.9	46.9	9.0	0.0	8.3	100.0
食や健康について考えてほしい	66	61	7	0	11	145
	45.5	42.1	4.8	0.0	7.6	100.0
郷土や国を愛する心をもってほしい	49	76	9	0	11	145
	33.8	52.4	6.2	0.0	7.6	100.0
人に対して思いやりをもってほしい	122	11	1	0	11	145
	84.1	7.6	0.7	0.0	7.6	100.0
コミュニケーション能力をつけてほしい	118	14	2	0	11	145
	81.4	9.7	1.4	0.0	7.6	100.0
規則正しい生活習慣を身につけてほしい	94	40	0	0	11	145
	64.8	27.6	0.0	0.0	7.6	100.0
友だちとたくさん遊んでほしい	97	34	3	0	11	145
	66.9	23.4	2.1	0.0	7.6	100.0

[2-3]ふだんのあなたとお子さんとの関わりについて、次のことがどのくらいあてはまりますか。(○は1つずつ)

質問項目	とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	合計
子どもと一緒にスポーツを楽しんでいる	13	40	60	20	12	145
	9.0	27.6	41.4	13.8	8.3	100.0
子どもとスポーツ以外の趣味を一緒に楽しんでいる	15	54	58	6	12	145
	10.3	37.2	40.0	4.1	8.3	100.0
子どもと一緒に地域の行事(お祭りなど)に参加している	32	58	35	8	12	145
	22.1	40.0	24.1	5.5	8.3	100.0
子どものやりたいことをできるだけ尊重している	65	63	5	0	12	145
	44.8	43.4	3.4	0.0	8.3	100.0
勉強以外の様々なことをできるだけ体験させている	60	57	16	0	12	145
	41.4	39.3	11.0	0.0	8.3	100.0
自分の体験したことを話している	61	51	20	1	12	145
	42.1	35.2	13.8	0.7	8.3	100.0
よくほめている	26	66	40	1	12	145
	17.9	45.5	27.6	0.7	8.3	100.0
よく「もっとがんばりなさい」と言っている	12	70	44	7	12	145
	8.3	48.3	30.3	4.8	8.3	100.0
よく小言を言っている	33	62	34	4	12	145
	22.8	42.8	23.4	2.8	8.3	100.0

[2-4]あなたは、子どもの体験活動について、次のように思いますか。(○は1つずつ)

質問項目	とても思う	少し思う	あまり思わない	まったく思わない	無回答	合計
自分の子どもには、今は体験活動よりも勉強を優先させたい	5	35	80	12	13	145
	3.4	24.1	55.2	8.3	9.0	100.0
学校の授業や行事では、子どもたちが体験活動ができる機会が十分にある	9	49	67	7	13	145
	6.2	33.8	46.2	4.8	9.0	100.0
学校の授業や行事以外では、子どもたちが体験活動ができる機会が十分にある	8	36	82	6	13	145
	5.5	24.8	56.6	4.1	9.0	100.0
現在の子どもたちは、自分が子どもの頃と比べて、体験活動の機会が少なくなっている	46	54	32	1	12	145
	31.7	37.2	22.1	0.7	8.3	100.0

[3-1]お子さんを「御五神島・無人島体験事業」に参加させたきっかけについてお答えください。(〇は1つ)

選択肢	度数	%
親が行かせたいと思ったから	65	31.6
子どもが行きたいと言ったから	129	62.6
知り合いの人に勧められたから	6	2.9
その他	4	1.9
覚えていない	1	0.5
無回答	1	0.5
合計	206	100.0

[3-2]「御五神島・無人島体験事業」に参加した後、お子さんの様子に変化がみられましたか。(〇は1つ)

選択肢	度数	%
変化がみられた	156	75.7
変化はみられなかった	30	14.6
覚えていない	8	3.9
無回答	12	5.8
合計	206	100.0

※「変化がみられた」に〇をつけた人のみ (N=156)

選択肢	度数	%
自分のことは自分でできるようになった	54	34.6
こころ配りができるようになった	46	29.5
人に合わせるできるようになった	31	19.9
やさしくなった	31	19.9
自分で考えて行動するようになった	65	41.7
自信をもつようになった	84	53.8
自分の意思をはっきり言うようになった	53	34.0
約束を守るようになった	15	9.6
前向きな姿勢が見られるようになった	72	46.2
規則正しい生活をするようになった	15	9.6
お手伝いをするようになった	43	27.6
わがままや不平不満を言わなくなった	20	12.8
努力するようになった	31	19.9
我慢づよくなった	67	42.9
物を大切にするようになった	35	22.4
自然に対して興味をもつようになった	61	39.1

[3-3]「御五神島・無人島体験事業」にお子さんが参加したことで、今でも思い出に残っている出来事などはありますか。(〇は1つ)

選択肢	度数	%
ある	171	83.0
ない	6	2.9
覚えていない	18	8.7
無回答	11	5.3
合計	206	100.0

[3-4]「御五神島・無人島体験事業」で体験したことが、お子さんの現在の生活や考え方、進路などに影響を与えていると思いますか。(〇は1つ)

選択肢	度数	%
とても思う	78	37.9
少し思う	73	35.4
あまり思わない	43	20.9
まったく思わない	1	0.5
無回答	11	5.3
合計	206	100.0

[3-5]あなたは「御五神島・無人島体験事業」の継続についてどう思いますか。(〇は1つ)

選択肢	度数	%
絶対に続けてほしい	92	44.7
可能であれば続けてほしい	103	50.0
無理して続ける必要はない	3	1.5
どちらとも言えない	3	1.5
無回答	5	2.4
合計	206	100.0

【スタッフ調査】

〔1-1〕あなたの氏名と年齢をお書きください。

選択肢	度数	%
20代	10	7
30代	40	28.2
40代	49	34.5
50代	39	27.5
60代以上	4	2.8
合計	142	100

〔1-2〕あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

選択肢	度数	%
男性	85	59.9
女性	57	40.1
合計	142	100.0

〔1-3〕初めて事業に参加した当時の職名と主な校務分掌をお書きください。

(第1章「調査の概要」に記載)

〔1-4〕現在の職名と主な校務分掌をお書きください。

(第1章「調査の概要」に記載)

〔2-1〕あなたが「無人島体験事業」等に参加した主なきっかけについてお答えください。(○は1つ)

選択肢	度数	%
自分が行きたいと思ったから	26	18.3
教育委員会の方に誘われたから	57	40.1
先輩や同僚に勧められたから	41	28.9
覚えていない	0	0.0
その他	18	12.7
合計	142	100.0

〔2-2〕あなたが事業に参加したのは、何年度ですか。参加した年度にすべてに○をつけてください。

選択肢	度数	%
昭和63年度	1	0.7
平成元年度	1	0.7
平成2年度	0	0.0
平成3年度	3	2.1
平成4年度	8	5.6
平成5年度	7	4.9
平成6年度	4	2.8
平成7年度	10	7.0
平成8年度	7	4.9
平成9年度	7	4.9
平成9年度(山)	4	2.8
平成9年度(島)	0	0.0
平成10年度	13	9.2
平成10年度(山)	4	2.8
平成10年度(島)	1	0.7
平成11年度	7	4.9
平成12年度	8	5.6
平成13年度	7	4.9
平成14年度	10	7.0
平成15年度	9	6.3
平成16年度	6	4.2
平成17年度	9	6.3
平成18年度	13	9.2
平成19年度	5	3.5
平成20年度	10	7.0
平成21年度	9	6.3
平成22年度	9	6.3
平成23年度	9	6.3
平成24年度	13	9.2
平成25年度	9	6.3
平成26年度	9	6.3
平成27年度	13	9.2
平成28年度	13	9.2

参考

記述	度数	%
1	110	77.5
2	11	7.7
3	8	5.6
4	2	1.4
5	4	2.8
6	1	0.7
7	3	2.1
8	0	0.0
9	3	2.1
合計	142	100.0

〔2-3〕「無人島体験事業」等において、かかわった子どもに変化がみられましたか。(○は1つ)

選択肢	度数	%
変化がみられた	136	95.8
変化はみられなかった	1	0.7
覚えていない	5	3.5
合計	142	100.0

※「変化がみられた」に○をつけた人のみ (N=136)

選択肢	度数	%
自分のことは自分でできるようになった	62	45.6
こころ配りができるようになった	61	44.9
人に合わせることができるようになった	64	47.1
やさしくなった	35	25.7
自分で考えて行動するようになった	69	50.7
自信をもつようになった	52	38.2
自分の意思をはっきり言うようになった	37	27.2
約束を守るようになった	13	9.6
前向きな姿勢が見られるようになった	82	60.3
規則正しい生活をするようになった	8	5.9
お手伝いをするようになった	44	32.4
わがままや不平不満を言わなくなった	55	40.4
努力するようになった	30	22.1
我慢づよくなった	72	52.9
物を大切にするようになった	36	26.5
自然に対して興味をもつようになった	37	27.2
その他	9	6.6

〔2-4〕「無人島体験事業」の中で教育的な効果が高いと思う活動はどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

選択肢	度数	%
テント設営	79	55.6
食事づくり	133	93.7
生活用品づくり(食器棚、洗濯物干し等)	100	70.4
海水浴	11	7.7
シュノーケリング	17	12.0
つり	17	12.0
テントサイトコンテスト	48	33.8
自給自足的な生活体験	112	78.9
キャンプファイア	62	43.7
その他	17	12.0
教育的な効果が高いと思う活動はない	1	0.7

〔2-5〕あなたは、学校の児童生徒を「無人島体験事業」に参加させたいと思いますか。(○は1つ)

選択肢	度数	%
とても思う	98	69.0
少し思う	41	28.9
あまり思わない	1	0.7
まったく思わない	0	0.0
無回答	2	1.4
合計	142	100.0

〔2-6〕「無人島体験事業」等について今でも思い出に残っている出来事がありますか。(○は1つ)

選択肢	度数	%
たくさんある	99	69.7
少しある	36	25.4
あまりない	2	1.4
ほとんどない	1	0.7
無回答	4	2.8
合計	142	100.0

〔2-7〕「無人島体験事業」で体験したことが、今のあなたの生活や考え方に影響を与えていると思いますか。(○は1つ)

選択肢	度数	%
とても思う	74	52.1
少し思う	48	33.8
あまり思わない	18	12.7
まったく思わない	0	0.0
無回答	2	1.4
合計	142	100.0

[2-8]「無人島体験事業」で体験したことが、その後、あなたの教育観に影響を与えていると思いますか。(○は1つ)

選択肢	度数	%
とても思う	73	51.4
少し思う	54	38.0
あまり思わない	13	9.2
まったく思わない	0	0.0
無回答	2	1.4
合計	142	100.0

[2-9]「無人島体験事業」に参加したことが、その後、あなたのキャリア形成に影響を与えていると思いますか。(○は1つ)

選択肢	度数	%
とても思う	26	18.3
少し思う	36	25.4
あまり思わない	74	52.1
まったく思わない	6	4.2
合計	142	100.0

[2-10]「無人島体験事業」等で出会ったスタッフと今でも交流を続けていますか。(○は1つ)

選択肢	度数	%
続けている	61	43.0
以前はしていたが、今はしていない	55	38.7
したことがない	26	18.3
合計	142	100.0

※「続けている」「以前はしていたが、今はしていない」に○をつけた人のみ
(N=116)

選択肢	度数	%
Facebook、LINE、TwitterなどのSNS	40	34.5
メール	30	25.9
手紙	16	13.8
電話	21	18.1
直接会った	65	56.0
その他	16	13.8

[2-11]今後も「無人島体験事業」にスタッフとして参画してみたいと思いますか。(○は1つ)

選択肢	度数	%
とても思う	28	19.7
少し思う	53	37.3
あまり思わない	47	33.1
まったく思わない	8	5.6
無回答	6	4.2
合計	142	100.0

[2-12]今後も「無人島体験事業」で継続してほしいプログラムや、新たに取り組んでみたいと思うプログラムがありましたら
ご自由にお書きください。
(自由記述につき、省略)

[2-13]「無人島体験事業」30周年記念誌に投稿したいあなたの思いをご自由にお書きください。
(自由記述につき、省略)

